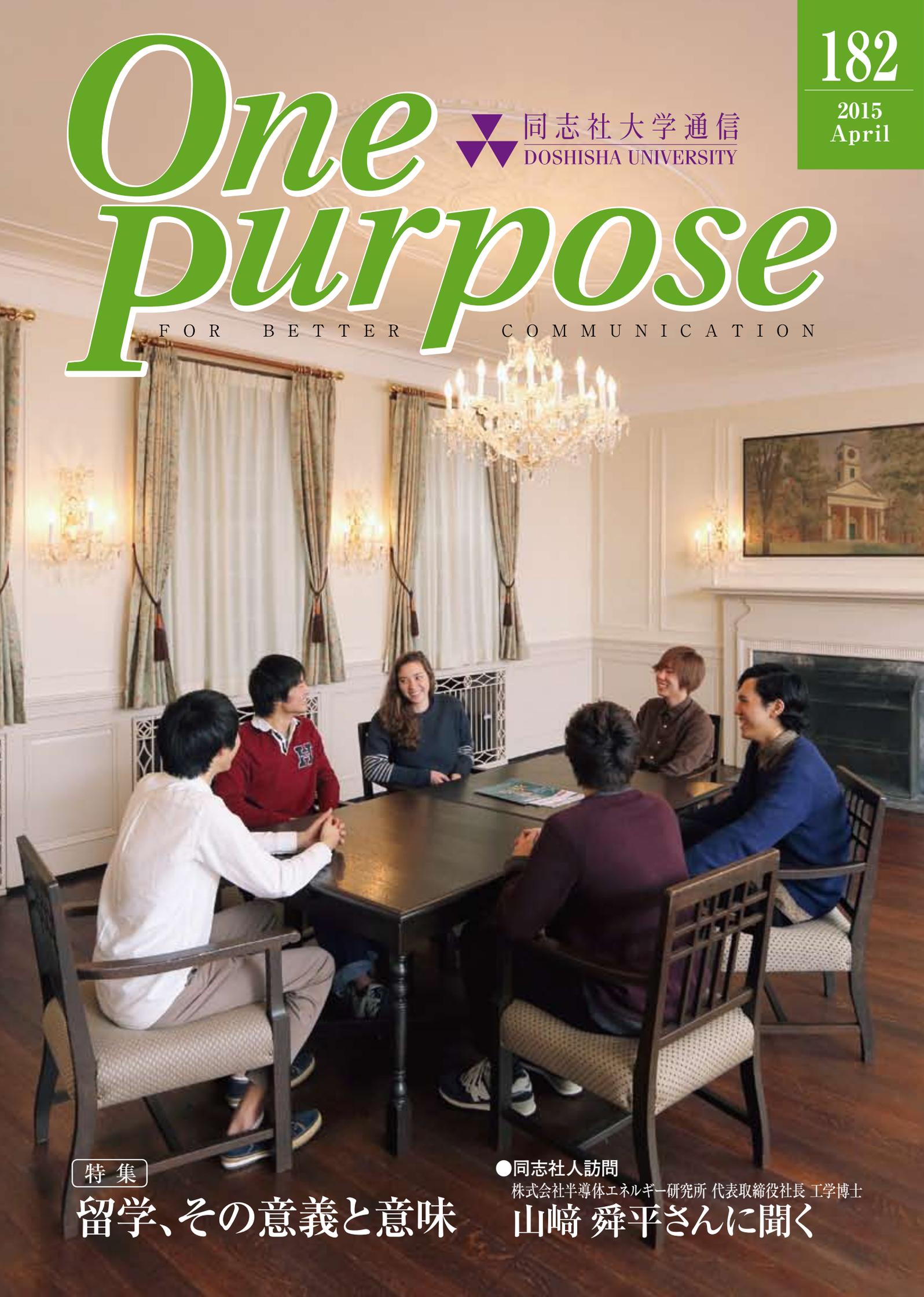


One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



特集

留学、その意義と意味

●同志社人訪問

株式会社半導体エネルギー研究所 代表取締役社長 工学博士

山崎 舜平さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。



特集

留学、その意義と意味

SEMINAR ~ゼミ探訪 学びの時間~	9
社会学部 板垣 竜太 ゼミ	
同志社の研究は今	11
〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター 富山 一郎 グローバル・スタディーズ研究科 教授	
神と人、人と人が出会い、集う聖なる空間 同志社京田辺会堂誕生	13
CAMPUS NEWS	15
ホームカミングデー2014・同志社創立139周年記念 リユニオンを終えて／2014年度秋学期 外国語honors認定書授与式／特定寄付奨学金募金協力者ご芳名／第19回 同志社国際主義教育講演会を開催／「2014年度 同志社大学リエゾンフェア」を開催／新任教員紹介／退職教員／本学教員の執筆図書紹介	
INTERVIEW ~同志社人訪問~	20
株式会社半導体エネルギー研究所 代表取締役 工学博士 山崎 舜平さんに聞く	
MY JOB, MY LIFE ~シリーズ 私と「仕事」~	23
・松本 勇介さん(2007年 文学部文化学科文化史学専攻卒業) ・川人 ゆかりさん(2008年 商学部卒業)	
ANNOUNCEMENT	25
MY PURPOSE ~挑戦する人~	27
「第3回U-23アジア選手権大会」男子フルレ団体で優勝 ~個人でも頂点を目指し、次に狙うのは東京五輪の表彰台~ ・西村 拓也さん〈商学部 3年次生〉	

表紙の情景 [Amherst Fellow-Office Hours]

新島襄も学んだアーモスト大学と本学の教職員・学生との交流を深めることを目的に、毎年アーモスト大学の卒業生が「アーモスト・フェロー」として派遣されています。現在は、マサチューセッツ州出身のキャサリン・モースさんが来校中です。



キャサリンさんはアーモスト大学で日本語やアジアの文化・環境学を学び、同校を2014年5月に卒業。寿司などの和食や釣りの歴史・日本の魚に関する環境問題を本学で研究するため来日されました。

そんなキャサリンさんとお話をする機会として、毎週木曜日13:10~14:40(試験期間・休暇期間は除く)にアーモスト館1階のアーモストフェローオフィスで「Amherst Fellow-Office Hours」を開催。アメリカの大学や留学に興味がある、英語での会話を楽しみたいといった学生たちが、アーモストフェローと交流しています。

留学、その意義と意味

同志社大学は創立以来、一貫して国際主義教育を指針の1つとしてきた。その原点は、国禁を犯して単身アメリカへ渡った若き日の新島襄の志にある。大きな苦難と障害を乗り越えなければならなかった時代とは違い、現在、多くの学生が海外で学ぶことを志し、またそのために手厚いサポートやバックアップも用意されている。であればこそ、今、留学を大学での学びの選択肢の1つとする。そのことの意義と意味を考えてみたい。

インタビュー

村田晃嗣学長が語る

想像力を持つことの重要性

私が留学を志す時に大事だと思うのは、想像力を持つということです。目的を持つことは大事ですが、留学することそれ自体が自己目的になってはいけません。留学したその先に何があるのか、思い描いておくことが必要です。

また、留学は自分が触れたことのない環境



村田 晃嗣 学長

や文化に接するということでもあります。例えば、本の中には何世紀も前の自分の知らない社会や文化があります。本を読むことでそれを想像できる力を持っている人は、必ず留学を成功に導くことができるはずですよ。

グローバル化ということを考えてみましょう。私たちは京都の町で暮らし、学びながら、この町の中でどれだけ外国人が、どんな考え方をもち、どのように生活している

のか、知っているのでしょうか。グローバル化というのは、国境を越えて外へ出ていくことばかりではありません。同じ町で外国から来た人たちが、私たちと隣り合って暮らしている。そういう状況にもグローバル化はあるのです。自分たちの身近にある、そうしたグローバルなものに気づくような視点を持っているかどうか、あるいは自分たちの身の回りでもグローバルなものを学ぼうとする感受

り、グローバルなものに気づくような視点を持っているかどうか、あるいは自分たちの身の回りでもグローバルなものを学ぼうとする感受

性や理解力、知識欲を持っているかどうか、留学を考える時、そうした点が重要になってくると、私は思います。

宗教的理解が 留学にプラスとなる

海外で暮らすときにももちろん語学の力は大事ですが、異文化、さらには異なる宗教への理解ということも非常に大事になってきます。国境を一步越えると、命がけて宗教を信じ、守っている人たちがたくさんいます。そういう人たちとどのように節度のある接し方をするのかということを含めて、宗教への理解を持たないと、いくら語学力に長けていても十分ではないかと思うのです。

その意味では、国際主義とともにキリ

スト教主義を徳育の基本とする本学は、宗教に対する感受性や理解を学生に醸成する機会、経験を十分に持った大学であると言えます。学内での学びの中で、宗教的理解を育み、それを持って留学した方が、結果的には留学にプラスの化学反応を起こす機会が大きいと思います。

また本学は、これまでに多くの留学生を送り出し、受け入れてきた経験のある大学です。そうした経験値の蓄積がありますから、留学をしたかと思っている学生に対して、きめ細かなサポートや情報提供、留学を経験した先輩からの助言を、より多く提供することができます。

さらに重要なのは、留学から帰ってきた学生たちが留学で得たものをどのよう

にする企画、プログラム、留学経験を自分の中で肥やしにしていけるような体制が大学の中にあるかどうかです。現在、本学では英語で開講している授業が増えてきています。帰ってきてからも、希望すれば英語で授業を受け続けることが可能です。

そして、外国からの留学生と留学経験のある学生たちがともに学び合える、少なくとも接し合えるような機会をもっと増やしていきたいと考えています。

人生の視野を広げるのに 役立つ

私自身のことを言えば、1991〜1995年、米国ジョージ・ワシントン大学大学院博士課程(政治学)に在籍した4年間、ホワイトハウス近くに住んでいま

た。この経験は、私の人生では間違いなくプラスになっています。経済的な面を含めて事情が許すのであれば若いうちに外国で学ぶ経験を持つことは、語学力だけでなく人生の視野を広げるのに役立つはずです。

ただ、大学教育に携わる者として考えなくてはいけないのは、大学在学中に学生を留学に送り出すことだけが私たちの教育の成功ではないということです。必ずしも在学中でなくても、会社に入ってからでも、あるいは別の大学の大学院に行つてからでも、やはり留学したいと思つた時にそれができるようなポテンシャルを持った若者たちを育てること。それこそが私たちの教育の第一義であるということとを忘れるわけにはいきません。



世界へ踏み出そう、可能性は無限大 外国協定大学派遣留学経験者が語る海外留学の意義と成果



同志社大学は、34カ国(地域)138大学(2015年2月現在)と学生交換協定を締結している。これらの協定校に半年間または1年間留学するプログラムが、外国協定大学派遣留学制度である。派遣留学生は大学での学業成績、語学能力、学部・研究科の面接結果、出願書類などを総合して選考され、留学先では現地の学生と同じように専門科目を履修する。そして、留学期間中も同志社大学に在学し、その期間は卒業に必要な修業年限に参入されるため、派遣留学生はどの国(地域)で学ぼうとも、常に同志社大学の学生であり続ける。同志社大学生としての誇りを胸に海外で学んだ派遣留学生たちは、留学することにどんな意義を感じ、留学によってどんな成果を得たのだろうか。

留学を決意したそれぞれの思い

島田●私は長年、企業で海外オペレーションを担当し、海外勤務も合計で18年間経験しました。現在、留学コーディネーターとして、グローバル人材としての成長を目指す学生のサポートを行っており、実際に派遣留学を経験したみなさんの体験談は、後に続く人たちのための貴重なノウハウとして活用していきたいと思っています。それではまず、それぞれの留学の動機から聞かせてください。

安井●高校時代にアメリカに行くプログラムに参加したのですが、その時に担当していたいただいたコーディネーターの人に、これからは英語だけでなくもうひとつ外国語力が必要だと言われ、フランス語を選びました。今

後、市場として有力なのはアフリカです。フランス語ができれば、やがてアフリカ関係の仕事ができると思います。フランス語を職業レベルまで持っていきたいと思ったのです。ストラスブル大学は少人数の授業で議論ができる学校で、議論やプレゼンテーションを通じてフランス人の思考回路を学びたいという気持ちから選びました。

森川●1年次の春学期にあった英語の授業で、先生から「自分から動かないと何も起らない」と言われ、4年間の大学生活の計画を立てたときに、まず留学ということが頭に浮かびました。私は父の仕事の関係で、3歳から10歳までの7年間オーストラリアで暮らし、中学の3年間は南アフリカに住んでいました。その時はただ父について行っただけだったので、今度は自分の意志で行

こうと思ったのです。今、スポーツ健康科学部で学んでいるのですが、アメリカはオリンピックでも表彰台を独占するようなスポーツ大国です。どうして優秀な選手を輩出できるのか、そのための組織はどうなっているのか、現地ですべてみたいと思ったのが、アメリカへの留学を決意した理由です。

田附●私の場合は、高校の授業が終わって大学に入学するまで2カ月ほど時間があつたので、知人のいるドイツを訪ねてみようと思ったことがきっかけです。ドイツ語はほとんど話せなかったのですが、現地の人たちと触れ合う機会があり、自分がいかに今まで流れのままに生きてきたのがわかって、これではだめだということに気づきました。そして、帰国した時にちょうど福島原発事故があり、経済の側面も含めた自然環境



問題に関心が生まれ、環境先進国でもあるドイツへの留学を決めました。

山本 ●私は父がアメリカ人ということもあって、以前からアメリカに行きたいという気持ちがありました。同志社大学に入っ
て夏休みに短期留学するサマープログラムでスタンフォード大学に行ったことから、アメリカで学びたいという気持ちが一層強くなったのです。

同志社大学の派遣留学生としての誇りを持って

島田 ●留学しようと思った時、不安に思ったことや障害になったことはありませんか。

安井 ●留学先としての協定校が多い点で、同志社大学の学生は恵まれていると思います。フランス語やドイツ語など第二外国語については、普通に授業を受けて語学を習得すれば、留学は十分可能だし実現できると思うのですが、人気の高い英語圏のアメリカなどは希望者も多く、1年次にしっかりと勉強できていない学生は厳しいかもしれません。

山本 ●私は向こうの大学の授業についていけるかという心配がありました。派遣留学には、英語ができればいいという問題ではなくて、別の要素がある

あると思いますね。

田附 ●第二外国語を取る場合、入学時に2つの大きな選択肢があります。入門クラスを取るか、留学を前提にしたインテンシブコースを取るか。私は入学する前から留学したいと思っていたので、インテンシブコースを取りました。結果的には3年次の秋学期から留学することになったのですが、本当はそれより1年早く2年次の秋学期から行きたかったのです。推薦状を書いてもらうところまでは行ったのですが、「もう1年頑張ったら芸術史の授業が向こうでも取れるようになる」と先生に言われて考え直しました。それが原動力になりました。

森川 ●私は海外に住んでいた経験から、語学ではあまり心配することはありませんでした。ただ、今は体育会の体操部に所属しているのですが、留学から帰った時に部の中でこういう存在になるのか、そちらの方が心配でした。行くことに対しての不安より、帰ってきた時の不安の方が大きかったですね。

島田 ●次に留学の中身ということで、派遣留学という制度を使ってよかったです。このころはあります。

山本 ●留学中の学費は同志社大学に納めることになるので、費用を安く抑えられたのはよかったです。

田附 ●大学間の協定ということで向こうの先生にも情報が行っているので、現地でもいろいろサポートしていただきました。

安井 ●派遣留学生に決まってから、国際課の方がフォローしてくれましたので、私は簡単な事務処理のみで済み、すごく助かりました。

自分で応募して手続きをしている友だちの大変さから比べると、ビザ申請の時でも派遣留学生としての立場は守られていると感じました。

島田 ●セットアップに時間がかかっていると、本来自分がやりたかったことの時間が少なくなってしまう。1年という時間は長いようで短いので、やりたいことに集中できていろんなサポート体制があるというのはありがたいですね。

森川 ●安全面などでも大学に守られているという安心感がすごくありました。私はカリフォルニア大学のサンタバーバラ校に行っていたのですが、留学中の5月に校内で銃の乱射事件があり怖い経験をしました。その時にも国際課の方から安全確認の連絡をもらい、心強かったです。大学の代表として行っているということで、同志社に留学したいと思っている人たちの相談に乗ったり、同志社大学の学生としての誇りを持つことができた1年間でした。

体験を通して得た自信、心の変化

島田 ●派遣留学は特別なものではなく、学内には全学プログラムとしての語学留学

島田 和憲
【留学コーディネーター】



や、各学部で主催する専門型留学など多様な留学プログラムがあり、さらなる内容の充実に取り組んでいます。留学は何を身に付けたいかというテーマで選ぶものです。学部の勉強に関連するものを深く学ぶのが派遣留学であり、語学留学にはしっかりと語学を習得する目的があります。派遣留学では語学を学ぶ時間は限られますから、アカデミックな語学力向上をテーマにするなら語学留学のほうがいいとも言えます。重要なのは、自分に一番合うプログラムを見つけることです。なりたい自分に近づく能力を養ってくれる留学を実現して欲しいですね。ではそんな留学で得たものの、留学を通して自分が成長した点などを教えてください。

山本 ●ワシントンDCでは校外授業があ



り、シンクタンクや政府がどうやって動いているのかを知って、自分の世界観が広がりました。それに、アメリカの大学には世界中、いろんなところから学生が来ていて、しかもみんな優秀。自分自身まだまだと感ずることが多く、そこに向かって頑張っていかなければと思うようになりまりました。

田附 ● 正規の芸術史学科

の授業で日本から留学してきているのは、私1人しかいませんでした。早く友だちをつくらないといけないと思って、オリエンテーションで隣の人に話しかけたりしたのですが、そういう勇氣は昔の私にはありませんでした。心を閉ざさずに積極的にオープンになっていく。失敗することを恐れずに進んでいく力は付いたかなと思います。

安井 ● 以前ならやりたいことがあると、友だちとの付き合いを断ってでもやらないといけないと思ってしまいう性格だったのです

が、そうしているとコミュニティに溶け込めません。どっしり構えて自分にゆとりを持つ性格になりました。

森川 ● 向こうではバスケットボール部のマネージャーをして、そのチームの中に入って役割を果たすことでどのようにして強くなるのか、自分の体験を通して深く知ることができました。

島田 ● 確かに森川さんのような経験も、留学をすごく充実したものにしていきますね。そうして留学で得たことは、自分はどういうふうに関わっているのでしょうか。

森川 ● 向こうの授業を経験したことで、卒業してからどこへ行っても怖くないという自信ができました。

安井 ● 私はゼロから関係を構築してきたプロセスを生かして、今後海外で仕事ができればと思っています。

田附 ● 京都で国際的な芸術祭があるということで、帰国直後からサポータースタッフとして参加しました。海外広報の仕事に携わり、とくに海外の人にターゲットを絞って活動をしたことが、社会に出る前の大きな一歩になりました。また現在、月に2回、ボランティア

アでドイツ人の土曜学校に通っています。そういういろんな人たちと触れ合える機会が、帰国してからもあるということはずごくありがたいと思います。

山本 ● 留学から帰ってきてプレゼンテーションに自信が付ききました。どんなことに興味があるのか、留学の経験に基づいて話せるのが大きいですね。

自分から動けば可能性は無限に広がる

島田 ● 学生の皆さんと話していると、留学に行けば何ができるようになると思う人がいますが、さらに整理して実現されたらいいのではと感じます。自らの留学テーマに沿って行くまでに何をするか、留学中はどう取り組むか、一番大事なのは帰国後、留学で得た貴重な知識や経験を使って自分の可能性や価値を高めることが大切です。体験を通してからしか学べない貴重なものが多くあり、みなさんそういう経験をさせてきました。最後に、後に続く学生に送るメッセージを。

安井 ● 自分の持っているものを使って可能

性を広げるために、1年間海外に行ってみるのは非常に有意義なものです。迷っている人がいれば、思い切って踏み出してほしいです。

森川 ● 私は「自分から動かないと何も起らない」という、自分が留学するきっかけになった言葉をそのまま伝えたいですね。留学を決意することもそうですが、留学先での授業以外の課外活動など、自分から積極的に行かないと何も経験できません。やらない後悔よりやる後悔。可能性は無限大ですから、自分から行動を起こすことが大事です。

田附 ● 留学することを損得で考えてはいけなと思います。これをしておいたらいいかもしれないと考えるよりも、したいと思うことをしてほしい。森川さんが言っていたように、自分から考える、行動することが大切です。

山本 ● 自分が持っている価値観が正しいかどうか、もっと別の方法があるのではないかと考える機会になるので、迷わないでぜひ行ってほしいですね。

島田 ● みなさんのお話は、必ず学生やその保護者の方々の心に響くことと思います。本日はどうもありがとうございました。



田附 那葉

【文学部美学芸術学科 4年次生】
留学先 / ドイツ・テュービンゲン大学
留学期間 /
2013年10月～2014年7月



森川 綾子

【スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科 3年次生】
留学先 / アメリカ・カリフォルニア大学
留学期間 /
2013年9月～2014年6月



山本 全翻

【文学部英文学科 4年次生】
留学先 / アメリカ・ペンシルヴァニア大学(KCJS加盟校)
留学期間 /
2013年8月～2014年5月



安井 裕貴

【法学部法律学科 4年次生】
留学先 / フランス・ストラスブール大学
留学期間 /
2013年9月～2014年6月

留学生と日本人の懸け橋 SIED

SIED(シード Student Staff for Intercultural Events at Doshisha)は、今出川・京田辺校地で国際交流イベントを企画・実施する国際センター留学生課の学生スタッフです。現在、約20名のメンバーが活動しています。同志社大学には多くの外国人留学生がいますが、交流する機会が少ないというのが実情。そこで学生の感性を採り入れ、学生目線で国際交流の企画を立て、学生自身の力で実現していこうと始めたのがSIEDです。多様なイベントを企画・開催していますので、興味のあるイベントがあれば是非参加してください。

- 新入留学生歓迎イベント
 - 「LUNCH TALK」・「Speak Up!」…様々な言語で交流しています。テーマを設定した「トーク」や「ディスカッション」も行っています。
 - 「Doshisha Intercultural Presentation」…留学生が日本人学生と一緒に母国を紹介。
 - 日本や外国の伝統料理を作って味わうイベント 等
- ※ 右記 facebook等 でイベントの詳細を紹介しています。

お問い合わせ 国際センター留学生課SIED

今出川: ji-sied@mail.doshisha.ac.jp
京田辺: jt-sied@mail.doshisha.ac.jp

国際センターfacebook
<https://www.facebook.com/DoshishaU.IC>



国際交流イベントページ
<http://www.doshisha.ac.jp/international/communication/event.html>



ハイキング～大文字山～



国際交流お花見

TOEFLスコアアップと留学準備のための正課科目

① PracticeとTutorialの2科目構成

「Intensive Courses for TOEFL」には、「Intensive Courses for TOEFL(Practice)」と「Intensive Courses for TOEFL(Tutorial)」の2科目があり、これら2つの科目を同じ学期にセットで履修します。いずれの科目も登録資格は設けていませんが、TOEFL ITP 400～480、TOEIC 400～530、実用英語技能検定準2級～2級程度のレベルを目安に講義を行います(ただし、一部上級クラスを設定)。

Intensive Courses for TOEFL (Practice)



PracticeではTOEFL ITPの対策を行います。TOEFL ITPの試験構成とパターンを知り、TOEFL ITPで求められるListening、Grammar、Readingの3技能の訓練を中心に、

多くの実践問題を解きながらスコアアップを目指します。講義形式は45分週2回と90分週1回のいずれかです。

Intensive Courses for TOEFL (Tutorial)

TutorialではTOEFL iBTの対策を行います。TOEFL iBTの試験構成と問題形式を知り、「聴く・読む」に加え「話す・書く」訓練を集中的に行います。留学先では、情報の



の受理だけでなく、読み、聞いて理解したうえで分類・要約・合成し、自分の意見へと発展させることが頻繁に求められます。そういった留学先での学習シミュレーションを通して、より総合的な英語運用能力を磨きます。講義形式は90分週1回です。

② 定員20名の徹底した少人数制教育

「Intensive Courses for TOEFL」は、Practice、Tutorialいずれも定員20名の少人数クラスで、同じ目的を持った熱意溢れる学生たちが、切磋琢磨しながら英語学習に励んでいます。また、英語学習に関するだけでなく、留学希望者に対する海外大学選定の相談など、きめの細かい個別指導を行います。

FAQ

Q: TOEFLとは何ですか?

TOEFLとは、英語を母国語としない人が海外の大学・大学院に入学を希望する際に課せられる英語能力判定試験で、現在、英語圏の多くの高等教育機関が、入学審査の際に、TOEFLスコアによる英語運用能力の提示を求めています。TOEFLには、TOEFL ITP(ペーパー形式の団体向けテストプログラム)と、TOEFL iBT(インターネットを利用したテスト)があります。本学が実施する Semesterプログラム(3～4月間の語学研修)でTOEFL ITP450以上か iBT45以上、外国協定大学派遣留学プログラム(半年～1年間の留学)でTOEFL ITP500以上か iBT61以上が出願の基準になっています。

Q: TOEFLを受験したことがないのですが、履修できますか?

はい、できます。初回授業でTOEFLの内容や構成などの基本情報を知る機会を設けますので、TOEFLに関する予備知識がなくても心配は要りません。

Q: 留学希望者以外は履修すべきではないのでしょうか?

そんなことはありません。英語を通じた他者理解や自己表現の力を高める意欲のある方は、特に留学希望者でなくても歓迎します。

同志社大学の留学プログラム

● 国際課HP :

http://international.doshisha.ac.jp/study_abroad/news.html



◆ 各留学プログラム概要

プログラム名	留学期間	選択可能な行き先
派遣留学	半年間 / 1年間	協定校数: 34カ国 138大学 (2015年2月現在)
サマープログラム	2~4週間 (夏休み中)	英語: 13大学 独/仏/中/西/露/韓
スプリングプログラム	2~4週間 (春休み中)	英語: 6大学 独/仏/中/西/韓
セメスタープログラム	約4カ月(1セメスター)(秋学期)	英語: 3大学

※ 詳細は国際課HP 或いは、国際課事務室にて「**外国留学の手引き**」(本学の留学に関する資料)を配布しております。ご質問等については、是非国際課にお越し下さい。

※ 学部・研究科が独自に提供する留学プログラムもあります。(問合せ先 ▶ 所属学部・研究科)

● 留学に関する奨学金

※ 各奨学金は出願資格や併給についての条件がある為、詳細は奨学金HPにてご確認をお願い致します。

http://international.doshisha.ac.jp/study_abroad/scholarship/overview.html



◆ 各種プログラム履修者への奨学金 (※給付制の奨学金の為、返還不要)

プログラム名	給付額	備考
サマープログラム / スプリングプログラム	プログラム費用2割(上限7万円)	科目合格者 全員支給対象
セメスタープログラム	25万円	

◆ 外国協定大学派遣留学生制度に関する主な奨学金 (※給付制の奨学金の為、返還不要)

奨学金名	給付額	支給期間	募集人数	備考
海外留学支援制度 (協定派遣)奨学金	月額6~10万円 (留学先地域により異なる。)	本学が認める留学期間で、1セメスター以上1年以内。	若干名 (学内選考有)	貸与奨学金との併給可。
同志社大学外国協定大学派遣留学生に対する奨学金	留学期間3カ月以上6カ月未満:一時金15万円 留学期間6カ月以上:一時金30万円			
同志社校友会 グローバル人材育成奨学金	1名につき100万円 ※ 他の海外留学に対する奨学金との併給はできない。 ※ AKP/KCJS加盟校への派遣留学生のうち8カ月以上1年未満留学する者に限る。		AKP/KCJS加盟校枠より1名ずつの採用。	

問合せ先 ▶ 大学間協定による派遣留学の場合: 国際課 / 学部・研究科間協定による派遣留学の場合: 所属学部 / 研究科

留学コーディネーター / 留学アシスタント

専門の留学コーディネーターが、海外で培った豊富な知識や経験をベースに、皆さんの留学やグローバルキャリアデザインに関する相談に個別対応します。また、実際に派遣留学を経験した学生や、海外の大学から本学へ留学中の学生が留学アシスタントとして今出川キャンパス良心館2階のGlobal Villageで留学に関する質問に対応します。

【相談受付時間/場所】

■ 月曜日~木曜日 10時~18時 /

今出川校地 良心館2階ラーニング・commons入口を入ってすぐ

■ 金曜日 9時~17時 / 京田辺校地 ローム記念館3階国際課





社会学部社会学科
板垣 竜太 ゼミ

「現場」で考え、体験し、 社会の常識を見つめなおす。

まず現場に行つて人に会い、話を聞く

家族や地域、学校、企業など様々な集団や組織で構成されている現代社会。こうした複数の人間が集まっている状態を観察し、人と人の関係や個人と社会の関係を研究するのが、社会学という学問である。その領域は、政治、宗教、教育、社会心理、社会病理など広範な現象に及ぶ。

フィールドワークやアンケート調査といった「社会調査」の手法が重要になる社会学科の中でも、板垣竜太教授のゼミは、より実践的な「現場主義」の傾向が強いことで知られている。「常識から一歩引いて、実際はどうだろうか」と調べながら考えるのが社会学です。外から見えるイメージや印象を語るだけでなく、内側から実証的に調べていくことが大事なのです」と言う板垣教授。担当する科目は国際社会学だが、1999年から2001年まで韓国で暮らし、現地の言葉を学び、民衆の生活の歴史を調査した経験を持つことから、日本に

住む韓国・朝鮮人の社会や歴史、日本人社会との間に横たわる諸問題などへの造詣が深い。

「ここ数年のゼミでは、身近な異文化に接し、「現場（フィールド）から考える」ことを目標に、在日朝鮮人を対象にした調査をずっとやってきました」

2010年度は京都市内で居酒屋を経営する在日朝鮮人兄妹3人のライフヒストリー、2011〜13年度は京都朝鮮初級学校の現状を伝えるドキュメンタリーと、学生たちが実際にインタビューし、ビデオに記録したものを、映像作品としてまとめ、発表した。ゼミがスタートする3年次の4月から、現場へ赴いて調査し、テーマを決めて春学期に撮影。秋口に編集作業を行



板垣 竜太

【社会学部教授】

い、10〜11月に500〜800人の観衆を集めてハーディーホールで上映した。

「2005年からゼミを受け持つようになり、最初は購読型の授業で本を読んでもわかりました。ところが、学生たちの反応がいまひとつよくない。そこに書いてあることに実感が湧かないんですね。だから知識を入れる前に、まず現場に行つて人に会

い、話を聞いていこうと考えたのが始まりなんです」

実際に現場へ入り込んでいくと、学生たちの抱く印象は、それまでとはガラリと変わるという。

調査研究は自主性・積極性が求められる

2014年度は京都朝鮮初級学校から離れ、同志社から最も近い在日コミュニティである田中地区を調査している。地図・統計などの資料分析、そこで暮らす人々へのインタビューをもとにしたライフストーリーづくり、小学校での参与観察（実際に研究対象の中に身を置き体験しながら観察する）、ビデオ映像記録といった手法を用い、コミュニティの様々な現象に多面的にアプローチ、理論化していく作業を進めている。2〜3人ずつの班に分かれて調査を行い、分担して執筆。最終的には1つの報告書にまとめていく。ただ、授業中は報告打ち合わせ・調整の時間になるため、調査そのものを実施するのは授業時間外だ。学生にはより自主的・積極的に考え、動いていくことが求められる。

そして、秋学期からは購読を加えて、授業の前半は学生自らが選んだ本の内容について発表し、全員で討論。9月には韓国を訪れ、全北大学の日本語文学科の学生と交流ゼミを中心としたゼミ合宿を行う。

こうして3年次のゼミが

終わると、4年次はいよいよ

12月の卒論提出に向け、

個々のテーマに沿って論文

の構想を詰めていくことになる。

社会学の領域の広さ

から、卒論のテーマには何を選んでもいい。

最近の代表的なテーマを見ると、「ご当地

キャラに見る萌えへの意識」「岸和田だん

じり祭とその（魅力）」「靖国問題と歴史修

正主義」「復興コミュニティの形成とポラン

ティア」と、硬軟取り混ぜて実に多彩だ。

自分の頭で考え、調べないとわからないものがある

板垣ゼミは2014年度の3年次生が13人。社会学を学ぶこと、板垣教授のゼミを選んだことについて、何人かに聞いてみた。

「社会学は法学や経済学を包括した広い分野のイメージがあります。専門的にというより広くいろんなことを知りたかったの」と言う寛野佑莉さん。「自分の周りのことや社会がどういうふう構成されているか、身近なのに知らないことが多い。



人と人の関係とか細かい視点で社会の現象を見られるようになりたいと思いました」と言う酒見麻里さん。社会学を学びたいと思った理由は、大半がこの2人の声に集約されそうだ。

板垣ゼミを選んだ理由も、森部裕樹さんが代表して話してくれた。「ゼミ紹介でいろんなゼミを見て考えたのですが、板垣ゼミが一番実際に調査に出て人の話を聞き、自分の目と耳で体験したことで考えるということを前面に打ち出していたと感じました。文献を読むことも大事ですが、実際に経験しないとわからないことがあるし、このゼミならそれができると思ったのです」

そんな板垣ゼミで1年間学んだ経験は、自分自身に何かをもたらしたのだろうか。

大石真里菜さんは「これまで差別することはいけないと思ってきたのですが、それだけでなく、違いがあるからこ

そい、違いを認めることの大切さを学んだような気がします」。

山田聖幸さんは「実際に人と会って話をすることが多いので、人とのつながりを感じることも多くなりました。その人の過去、現在

を聞くことによって、その人がどういう人で、その人の周

りにいろんな関係を持っている人がいることがわかってきます。人はひとりですべて生きているわけじゃない、周りの人の支えがあって生きているんだということを強く思うようになりましたね」と話す。

そんな学生たちに板垣教授は「情報を鵜呑みにしてはいけません。自分の頭で考え、自分で調べないと、物事の本質はわからないのだということを、体験を通じてわかってもらえれば、自分たちで何もつながりなかったところからインタビューを始めて、最終的に1つの形にしていく、その経験は卒業後、ゼロから何かをつくっていく力になるはずですよ」と、エールを送る。



専門分野や所属を超え、 一つの問題を継続してとことん 議論できる場に



辺野古への基地移設に関する問題をはじめ、沖縄についての議論は、「賛成」か「反対」か、あるいは「正しい」か「間違っている」かの2極のみで語られがちである。そのため、ある問題について論争が起こったとしても、議論は尽くされないまま、いつの間にか立ち消えになるケースが多い。そんな事態を打破しようと、2013年7月に設置されたのが「〈奄美-沖縄-琉球〉研究センター」である。奄美諸島を含む琉球諸島にかかわる歴史と現代的諸問題についての共同研究の場であるとともに、若手研究者の育成を目指す。京都を拠点に研究者のネットワークを構築し、大学の研究者に限らず、広く議論の場を提供することの意義、活動内容について、センター長の富山一郎グローバル・スタディーズ研究科教授に伺った。

沖繩の研究をしている人たちが 集まれる仕組みを

「京都を拠点にして、広い意味で沖縄の研究をしている人たちが集まれるような仕組みを作ろう」。これが、研究センター設立のそもそもの発想です。そこで、まず、龍谷大学経済学部の松島泰勝教授と本学大学院生の安里陽子さん、私の3人で〈奄美-沖縄-琉球〉コンソーシアムを作りました。その時の主旨は大きく2つあり、1つは、大学の研究者だけではなく、いろいろな角度から沖縄を考えている人を集める場とすること。もう1つは、例えば基地問題にしても、すぐさま答えを出すのではなく、そこに含まれる問題について、とことん議論を尽くすことが必要だということ。京都を拠点としたのは、議論がしたくなくばすぐに集まれて、時間を気にせず議論できるからです。また、そういう形でなければ議論できない、そういう形でこそ議論できる『問い』を守っていききたい。この2つの主旨は、研究センターに引き継いでいます。

1つの分野を研究している者同士であれば、議論はしやすいのですが、その分野が前提としていることはあまり問題にせず、問題にしてはいけない場合もあります。しかし、研究者ではない人も含め、いろいろな人が集まって話をするためには前提としている話もちゃんと説明して、それも『問い』に



さらず必要が生じます。ですから、手間暇をかけて議論する場でもあるのです。

問題解決のためではなく議論を継続することに意義がある

研究センターが設置されて2

年目の今、これまで議論できなかったことが議論できるようになりました。例えば、松島教授の著書『琉球独立論』の書評会を行いました。『独立』という言葉は、どこかで国家を作るという意味もありますから、国家を肯定的に考えていいのだろうかとか、あるいは民族独立というの、1945年以降、植民地主義からの脱却のスローガンでしたが、それが手放しで肯定していいわけではないことが、今ではわかってきています。そういうこともあって、論争にもならず、牽制し合うような空気が今もあるんです。また、2000年に『沖縄イニシアティブ』という提言がされたことがあって、沖縄の自立という文脈の中で基地を受け入れるということを主張した人がいました。その時も大論争になったのですが、結局、議論は煮詰まらないままに消えて行った形になっていました。しかし、その書評会では、『沖縄イニシアティブ』の問題も含めて、琉球独立論について議論しました。普通なら、

物別れになってしまう話が議論できたと思います。

それは、どちらが正しいかではなく、それが前提にしている話を理解して議論したからです。前提を問わない形で研究会を進める場合もあると思いますが、私はむしろ前提を問題にすることこそが研究だと思っています。それぞれの立場や自分自身をちゃんと説明して、その上で議論をしていくこと。それができる場だったからこそ、議論ができたわけで、沖縄問題を解決するために議論しているわけではなく、議論を継続することに意味があると考えています。

書評会には、研究センターの活動にもかかわらずに、カリフォルニア州立大学のウエスリー上運天さんも議論に参加してくれましたが、彼はハワイ生まれの沖縄3世で、北カリフォルニア沖縄県人会の会長です。多くの移民がいて、コミュニティがあるサンフランシスコで、自分たちが「オキナワ人」であることを主張することがどういうことであるのかを議論しています。このように、沖縄にはいろいろな側面があることを考えていきたいと思っています。

様々な切り口から沖縄を研究する

センターの研究者も、いろいろな角度から沖縄に興味をもっています。今日、同席してもらっている研究員の古波蔵梨さんは沖

縄出身で、沖縄イニシアティブ論争を研究しています。彼は東京の大学にいた頃、この論争は無視できるものなら無視をしておこうというふうに着がけがついたものと思っていたのですが、「沖縄イニシアティブについて何がいけないのかとクリアに話せるが、いざ沖縄に戻って話すととなると、同じテンションでは話せない。正しさのようなものがしっくりこないことに気づき、そのしっくりこないさを何なのかを考えたい」と言っています。

同じく研究員の鄭柚鎮(Young Yujin)さんは、ジェンダー論が専門で、95年に起きた沖縄米兵少女暴行事件が、沖縄という名前がインパクトを持ったきっかけだったそうです。ジェンダーの立場から見ても沖縄には研究対象が色々あり、いつも被害者として語られる沖縄だったり、女性だったり、少女だったり。その少女は、今は20歳を超えているはずなのに、今までもずっと少女と呼ばれています。そこにどんな力学が働いているかといったもっと細かい議論をしたいし、そのための空間を作りたい」と思ったこ

とが、研究センターに関わるようになってきたきっかけです。

国際的な研究ネットワークのハブとなることを目指す

5月には歴史学者で沖縄県副知事を務めていたこともある高良倉吉さんを招き、イエスカノーの結論を出すためではない議論をする予定です。ワークショップには院生も加わったり、他の大学から学生も参加したりすることに大きな意味があると考えています。ソウルには、『スユモノ』という自発的に作られた研究組織があり、所属が色々な人が集まって議論しながら研究を進めています。そこで、4日間のセミナーが決定しているのですが、同志社大学から院生が参加したり、同志社大学にも招いたりという形で、議論が継続していき、それがまたいろいろな人とのつながりを作っていくかと思っと思っています。研究のネットワークを構築し、研究情報のひとつのハブとなっていくためにも、関係を紡いでいくことを大事にしたい。研究の焦点は多焦点になっていくと思いますが、そういう視点は、沖縄の研究に限らず、いろいろな分野の研究でも求められていることだと思います。何か議論を急ぐような風潮や、答えをすぐに求める風潮があるのは確かです。そういう意味でも手間暇かけた議論をする場を設けたことは間違っていないかと、手応えを感じているところです。



神と人、人と人とが出会い、集う聖なる空間 同志社京田辺会堂誕生

「基督教主義を以って徳育の基本と為せり」。この同志社大学の建学の理念を具現化するものとして、京田辺キャンパスに「同志社京田辺会堂」が誕生した。

国際コンペにより379点の中から採択された作品を基本として建設された建物は、「新島襄の『海』」がつなぐキリスト教主義と自由の精神をコンセプトとしている。同志社京田辺会堂は、キリスト教主義の象徴である礼拝堂を有する「言館(KOTOBARI-KAN)」と、学生の自由な交流の場であるラウンジ(同志社に關する資料を併設)があり、自由主義を表す「光館(HIKARI-KAN)」からなる。

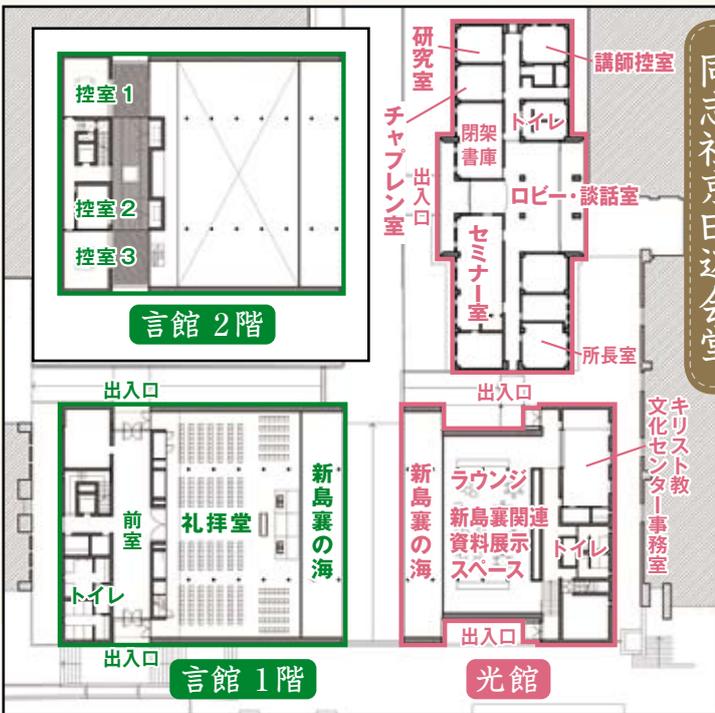
「言館」と「光館」は、一体感と開放感を生み出すための大きなガラス面により向かい合っており、礼拝堂が学生にとって近寄り難い特別な場所としてではなく、普段の生活の一部であるという親和性も表している。

さらに、「言館」と「光館」の間には、「新島襄の海」を配置。若き日の新島が国禁を犯して渡った大海原を想起させ、同志社の国際主義の原点を表現する。

同志社京田辺会堂では、宗教に対する「心のバリア」を下げ、日常の中にキリスト教と新島の志を感じることのできる、いわば「神と人、人と人」が出会う場所・時間となるようにとの願いのもと、様々なプログラムを行う。250人収容の礼拝堂で週3回のチャペル・ア

ワーのほか、昼休みにはオルガンの音色に包まれながら心静かな時間を過ごすメディアテーション・アワーを開催。その他、講演会や学生団体の成果発表の場としても利用可能であり、京田辺キャンパスにおける精神的なシンボルとして、学生が集う新たな拠点となることが期待される。

同志社京田辺会堂



言館 (KOTOBA-KAN)

〔由来〕「初めに言(ことば)があった。」

言は神と共にあった。」

(ヨハネによる福音書1章1節)

〔新約聖書〕〔新共同訳〕

▼礼拝堂開室時間(開講期間中)

平日9時～17時(土日祝は閉室)

〈チャペル・アワー〉

キリスト教主義を教育理念の一つとして掲げる同志社大学が大切にしているプログラム。開講期間中、現代に生きる人間の諸問題に関して、学内外の様々な分野で活躍される人々に奨励していただいている。礼拝形式で行われるが、誰でも自由に参加できる。火曜日と金曜日はランチタイム(12時35分～13時)に、水曜日は15時～15時45分に開催。

*奨励者や奨励題はホームページ参照。

*今出川校地の場合は火・水曜日の時間が異なる。

http://www.christian-center.jp/

chapelhour/index.html

〈メディアテーション・アワー〉

オルガニストの演奏に耳を傾けながら静かなひとときを過ごしていた

けている。心静かに黙想

(meditation)

するうちに穏

やかな安らぎ

が生まれてく

るだろう。

月・水・木 12時

30分～13時

(開講期間中)

〈同志社京田辺会堂献堂記念

特別プログラム〉



①講演会

●村田晃嗣学長

4月17日(金)15時～16時15分

●佐藤優氏(作家・元外務省主任分析官)

5月15日(金)14時55分～16時25分

②チャペル・コンサート

●学生によるコンサート

音楽系クラブによるコンサート

4月2日(木)・3日(金)

両日とも13時～15時

●アーティストによるコンサート

陣内大蔵氏(牧師・シンガーソング

ライター)

5月27日(水)13時10分～14時30分

光館 (HIKARI-KAN)

〔由来〕「初めに、神は天地を創造された。」

地は混沌であって、闇が深淵の面

にあり、神の霊が水の面を動い

ていた。神は言われた。「光あれ。」

こうして、光があった。」

(創世記1章1節～3節)

〔旧約聖書〕〔新共同訳〕

◇ラウンジ・新島襄関連資料展示スペース◇

ラウンジでは、学生が休憩や友人との会話を楽しむなど自由な時間を過ごすことができる。東面の展示ウォールに同志社のあゆみ(年表)と新島襄肖像画を常設展示している。それ以外にもポスターサイズで写真と資料をパネル展示し、展示ケースには資料(約30点)を出

陳。春学期と秋学期の年2

回、テーマを変えて入れ替え

を行う。2015年度春学期

のテーマは「同志社大学のキ

リスト教」で、新島襄が実際

に使用していた聖書のレプ

リカも展示する。

◇研究室とチャプレンス◇

キリスト教文化センター教員とチャプレンス(教会のみならず学校などで相談に応じる牧師)が、学生一人ひとりの悩みや不安などの相談に応じるオフィス・アワーを行う。

◇セミナー室◇

オープン・プログラム等の会場として使用される。

同志社京田辺会堂

言館

光館



キリスト教文化センター

http://www.christian-center.jp/

【京田辺】

TEL: 0774-65-7370

E-mail: jt-kirib@mail.doshisha.ac.jp

【今出川】

TEL: 075-251-3320

E-mail: ji-kirib@mail.doshisha.ac.jp



ホームカミングデー2014 同志社創立139周年記念 リユニオンを終えて

2014年11月9日、ホームカミングデー2014・同志社創立139周年記念リユニオンを今出川キャンパスで開催した。当日は悪天候にもかかわらず、約2000人の卒業生やそのご家族にご来場いただいた。開会式にはじまり、集合写真、学長講演、卒業生の交流レセプションなど様々なプログラムが催された。



今年には創立者新島襄が函館を出国して150年目の記念の年にあたり、記念講演会として小原克博神学部教授が「良心学の挑戦―原点から未来を展望する」というテーマで講演を行った。また、学生による「志」コンテストの最終選考を同志社礼拝堂にて実施した。事前審査を通過した学生5人がそれぞれの「志」を卒業生の前で披露し、同志社校友会から選出された審査員により、新島賞1人・特別賞が

4人選ばれた。

また、同志社校友会の協力を得て企画した物産展では、全国各地から届けられた名産物はどれも好評で閉会を待たずして完売した。その収益は、同志社大学宛に寄付として志納される。その他、グリーククラブによる合唱、応援団の演舞、新島旧邸見学、キャンパスツアー、子供向けのイベントなどのプログラムを開催し、卒業生だけでなくご家族共々楽しんでいただけた一日となった。

次年度も卒業生が母校へ集い、旧友との懐かしい一時を過ごせる一日を提供していきたい。

(校友父母課)

2014年度秋学期 外国語honors 認定書授与式

2014年11月20日、クラーク記念館チャペルにて、2014年度秋学期の外国語honors認定書授与式を挙行了。外国語honors制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)は、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入している。

授与式では、真山達志教務部長の司会のもと、村田晃嗣学長から祝辞が述べられ、外

国語科目成績優秀者一人ひとりに認定書と記念品が手渡された。

認定を受けたのは、文学部12人、社会学部2人、法学部1人、経済学部3人、商学部1人、生命医科学部1人、グローバル・コミュニケーション学部4人の計24人で、言語の内訳は、英語9人、ドイツ語3人、中国語9人、スペイン語1人、ロシア語2人、日本語1人であった。

認定書を授与された学生は、以下のとおり。

■外国語honors(英語)

- 中董(文学部・2012年度生)
- 西海直也(文学部・2012年度生)
- 西山沙甫(文学部・2012年度生)
- 大西茉莉(文学部・2012年度生)
- 竹原菜々子(文学部・2012年度生)
- 経澤真紀穂(文学部・2012年度生)
- 山本泰加(文学部・2012年度生)
- 平田博一(経済学部・2012年度生)
- 西山拓輝(生命医科学部・2011年度生)

■外国語honors(ドイツ語)

- 高橋結衣(文学部・2011年度生)
- 田附那菜(文学部・2011年度生)
- 岩本真以子(経済学部・2011年度生)

■外国語honors(中国語)

- 佐竹礼子(文学部・2010年度生)
- 渡辺遥(文学部・2011年度生)
- 西海直也(文学部・2012年度生)

中村博子(社会学部・2011年度生)
高橋茜(社会学部・2011年度生)
光田結(法学部・2011年度生)

花井香織(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)
岡野真歩(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)
佐々木華(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)

■外国語honors(スペイン語)

宇野伊吹(文学部・2012年度生)

■外国語honors(ロシア語)

松本耀介(経済学部・2010年度生)
大森貴之(商学部・2012年度生)

■外国語honors(日本語)

劉瀟瀟(グローバル・コミュニケーション学部・2011年度生)
(今出川校地教務課)

特定寄付奨学金募金 協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2015年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のご協力いただきました。

2014年4月〜2015年1月の申込者

卒業生 ご父母 一般	53件	3,364,000円
教職員	44件	2,922,500円
合計	97件	6,286,500円

【芳名(敬称略、順不同)】

【卒業生、ご父母、一般】

900,000円 同志社生活協同組合

500,000円

松村理司 公益財団法人吉田育英会

300,000円 同志社校友会

298,000円 森田 秀夫

100,000円 安田 徹

50,000円 中山 富久子 三原 誠治

30,000円 川向 幹男

10,000円

加藤肇 鈴木 雄二 松本 邦博 前田 耕司

西村 浩 石井 頼一郎 中村 勝彦 山本 博万

山中 光太郎 岩本 憲彦 小林 英彦 能城 彩佳

5,000円

川野 修平 野口 劭 倉島 正夫 吉村 賢

【芳名のみ金額非掲載】

三上 保孝 塚寄 英史 柴田 博昭 豊田 俊一

丹所 且臣 脇山 未来 山田 英史 越智 昭彦

末永 大志 西村 二郎 石川 裕 富岡 努

植木 和夫 小林 知加 大川 佳祐 奈良 光浩

宮本 雅祥 岡本 多久司

116,000円(匿名合計) 匿名10名

250,000円 西川 真司

150,000円 工藤 和男

120,000円 北 寿郎

60,000円 石田 修一

55,000円 植村 巧

30,000円 吉川 健 職員カレ1部(仮)

11,000円 北 幸史

【芳名のみ金額非掲載】

兼重 雅好 宮庄 哲夫 浜中 邦弘 藤井 邦宏

新茂 之 富田 安信 勝本 勲 林 克樹

若城 智浩 戸田 裕之 森田 佳世子 今川 晃

トロモビッチ フィリップ 中村 拓也 竹田 宗維

酒井 優 廣田 宗之 匿名19名

905,500円(匿名合計)

当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】財務部資金課

電話番号：075-251-3150

E-mail: ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp

第19回 同志社国際主義教育講演会を開催

1月14日、今出川キャンパス良心館において、哲学者大谷大学教授・せんだいメデイアテーク館長の鷺田清一氏を講師にお迎えし、「おとなの背中」の演題で第19回同志社国際主義教育講演会を開催した。

鷺田氏は、冒頭、劇作家である山崎正和氏が満州から日本に引き揚げる際に体験した教育について紹介され、そこから「教育というものは教えることではなく伝えることではないかと、考えるきっかけになった。」と述べられた。また、NHK朝ドラ「カーネーション」の主人公小原糸子の話から、「敗戦後、日本では秩序が崩れてうろたえる者が多かったが、糸子は社会の秩序はいつでも崩れる



もので、その時に生きていくにはどうすれば良いかを考えていた女性である。世界では難民にな

る可能性が高く、難民になったとしてもどう生きていくかが重要であり、基本的には何でも食べられる、どこでも寝ることができ、誰とも仲良くなれるという能力が必要となる。現在の国際主義を考えると、その事を強く思う。」と述べられた。

次に、自身の体験談からかつては色々な先生がいた話をされ、現在の学校は基準があつて、ぶれを許さずワンパターンとなり、「おとなの背中」が一種類になってしまっている点を指摘し、子供は色々な「おとなの背中」を見て、生き方の選択肢を考え、知恵も自然とそこから身につけることを話された。

続けて、全能感と無能感について紹介された。「今の子供は、小遣いによりお金をもっているのでは、お金があれば何でもできるという全能感を感じるが、一度思い通りにならなかったり、失敗したりすると何もできないと感じる無能感に陥る。何でもできるか、何にもできないかという極端な状態になるが、これではたくましく生きていけない。」と指摘された。

結びに、「教育は教えることではなく伝えることであり、学校としては、子供はそこに

いれば勝手に育つような場所と時間と空間とを用意することが重要である。」と述べられ、講演を終えられた。

当日は、一般市民、学生など約140人が参加し、講師の実体験に基づく教育哲学に対する講演に熱心に聞き入り、質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに講演会を終了した。

(法人事務室)

「2014年度同志社大学リエゾンフェア」を開催

1月21日、京田辺キャンパスにおいて「2014年度同志社大学リエゾンフェア」が開催され、約270人の参加があった。

今年度は、同志社大学の研究シーズを企業や関係機関に発信し、新たな産官学連携を生み出すため、「社会を変える、市場を動かす！新たなイノベーションにつながる同志社発、産官学連携の可能性」をテーマに、本学教員によるシーズ発表やポスター展示を行った。

当日、恵道館で行われた第1部では、渡辺好章副学長・研究開発推進機構長の開会挨拶、高島昌明近畿経済産業局地域経済部長による来賓挨拶、橋本雅文リエゾンオフィス、知的財産セン





ター所長から産官学連携活動紹介があり、その後、同志社大学の4人の研究者が研究シーズの発表を行った。さらに、本学のインキュベーション施設であるDegreeの活動紹介を行った。

京田辺Cafeteriaで行われた第2部

においては、大学の研究シーズ89点のパネル展示を行い、展示をもとに本学の教員や学生が説明し、情報交換をするなど、企業や関係機関と大学とのマッチングや交流の機会として好評を得た。また、学内の研究者が分野を越えて一堂に集まる機会が少ないこと

から、研究者同士の有意義な交流の場ともなった。第1部に先立ち、本学の研究施設やDegreeの見学ツアーを開催し、本学の施設紹介を行った。参加者からは「大学の取り組みがよく理解できた」「具体的な事例が大変参考になった」と考えている。

た。」などの評価をいただいた。これまでの講演を主体としたリエゾンフェアから大きく内容を変更した今回は、新たなイノベーションにつながるきっかけづくりになった

(研究開発推進課)

新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。①所属(学科)専攻 ②職名 ③主な担当科目



尹 珍喜
(ユン ジンヒ)
①社会(教育文化)
②任期付准教授
③海外教育事情



伊藤 高史
(いとう たかし)
①社会(メディア)
②教授
③マス・コミュニケーション論



Luke Hennessy ROWLAND
(ルーク ヘネシー ローランド)
①文(英文)
②任期付助教
③Listening A I



吉良 史明
(きら ふみあき)
①文(国文)
②任期付助教
③日本文学講読(近世C)



村上 みか
(むらかみ みか)
①神(神)
②教授
③近世キリスト教史



堂園 昇平
(どうぞの しょうへい)
①法(法律)
②任期付教授
③リーガル・フィールドワーク



白井 正和
(しらい まさかず)
①法(法律)
②准教授
③会社法 I



河村 博
(かわむら ひろし)
①法(法律)
②教授
③刑事訴訟法 I



郭 芳
(カク ホウ)
①社会学研究科(社会福祉)
②任期付助手



阿部 康人
(あべ やすひと)
①社会(メディア)
②任期付助教
③メディア社会論



笠井 高人
(かさい たかと)
①経済(経済)
②任期付助教
③基礎演習



大野 隆
(おの のり)
①経済(経済)
②教授
③政治経済学



望月 詩史
(もちづき しづみ)
①法(政治)
②任期付助教
③政治学入門



石橋 英典
(いしばし ひでのり)
①法(法律)
②任期付助教
③リーガル・リサーチ



永井 智亮
(ながい のりあき)
①法(法律)
②任期付教授
③リーガル・フィールドワーク



中園 宏幸
(なかぞの ひろゆき)
①商(商)
②任期付助教
③アカデミック・リテラシー I



佐藤 誠二
(さとう せいじ)
①商(商)
②特別客員教授
③税務会計論



高橋 広行
(たかはし ひろゆき)
①商(商)
②准教授
③消費者行動論



関 智宏
(せき ともひろ)
①商(商)
②准教授
③中小企業論



近藤 誠一
(こんどう せいいち)
①経済(経済)
②特別客員教授
③文化政策論



橋本 圭多
(はしもと けいた)
①政策(政策)
②任期付助手



増田 知也
(ますだ ともなり)
①政策(政策)
②任期付助教
③コミュニティ創造政策



木場 紗綾
(きば さや)
①政策(政策)
②任期付助教
③アカデミック・スキル I



平野 大昌
(ひらの だいすけ)
①政策(政策)
②任期付助教
③政策トピックス



洪 性奉
(ホン ソンボン)
①商(商)
②任期付助手



柳沢 英輔
(やなぎさわ えいすけ)
①文化情報(文化情報)
②任期付助教
③伝統音楽論



玉谷 充
(たまたに みつあき)
①文化情報(文化情報)
②任期付助教
③確率・統計



大塚 幸生
(おおつか さちお)
①文化情報(文化情報)
②任期付助教
③認知科学の方法



石岡 学
(いしおか まなぶ)
①文化情報(文化情報)
②任期付助教
③社会調査入門



兪 相成
(ユン ソンセイ)
①総合政策科学研究科(総合政策科学)
②任期付助手



奥村 直毅
(おくむら なおき)
①生命医科(医工)
②准教授
③整形外科学概論



路 姍
(ロ サン)
①理工研究科(情報工)
②任期付助手



岩崎 一成
(いわさき かずなり)
①理工(環境システム)
②任期付助教
③物理学基礎



桂井 麻里衣
(かづらい まりえ)
①理工(情報システム
デザイン)
②任期付助教
③プログラミングC言語I



加藤 恒夫
(かとう つねお)
①理工(インテリジェ
ント情報工)
②准教授
③デジタル信号処理



赤尾 聡史
(あかお さとし)
①理工(環境システム)
②准教授
③人間環境科学



川口 周
(かわぐち しゅう)
①理工(数理システム)
②教授
③代数学I



中田 賀之
(なかつた よしゆき)
①グローバル・コミュニ
ケーション(グローバル・
コミュニケーション)
②教授
③Advanced Communicative
Performance I



松倉 啓太
(まつくら けいた)
①スポーツ健康科
(スポーツ健康科)
②助教
③コーチング論



和久 剛
(わく つよし)
①生命医科
(医生命システム)
②任期付助教
③生物学



貞包 浩一郎
(さだかね こういちろう)
①生命医科(医情報)
②任期付助教
③物理学基礎



松島 正知
(まつしま まさと)
①生命医科(医情報)
②任期付助教
③フーリエ・ラプラス
解析



角田 伸人
(かくだ のぶと)
①生命医科
(医生命システム)
②任期付助教
③生物学



堀 哲也
(ほり てるや)
①生命医科
(医生命システム)
②任期付准教授
③細胞生物学II



全 美星
(ジョン ミソン)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②任期付准教授
③コリア語インテンスイV1



**Michael Anthony
EDWARDS**
(マイケル アンソニー エドワーズ)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②任期付准教授
③イングリッシュ・ワーク
ショップ1



若生 正和
(わこう まさかず)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②准教授
③コリア語インテンスイI



穂山 洋子
(あきやま ようこ)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②准教授
③ヨーロッパ言語・文化論I



宇佐見 耕一
(うさみ こういち)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②教授
③南北アメリカの課題4



**Gavin John
BROOKS**
(ギャビン ジョンブルックス)
①グローバル・コミュニ
ケーション(グローバル・
コミュニケーション)
②任期付助教
③Skills in Presentation



唐 穎芸
(トウ コウウン)
①グローバル・コミュニ
ケーション(グローバル・
コミュニケーション)
②助教
③現代中国の社会と文化



大橋 忠司
(おおはし ただし)
①免許資格課程センター
及び生命医科
②任期付教授



奥村 光太郎
(おくむら こうたろう)
①免許資格課程センター
及び社会
②任期付教授



櫻井 芳雄
(さくらい よしお)
①脳科学研究科
(発達加齢脳)
②教授
③神経生物物理学



貫名 信行
(ぬきなの のぶゆき)
①脳科学研究科
(発達加齢脳)
②教授
③脳構造形態学実習



山下 貴子
(やました たかこ)
①ビジネス研究科
(ビジネス)
②教授
③マーケティング



山下 友信
(やました とものぶ)
①司法研究科(法務)
②教授
③商法総合演習



Regine DIETH
(レギーネ ディーテ)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②任期付助教
③ドイツ語インテンスイI



土山 玄
(つちやま げん)
①研究開発推進機構
及び文化情報
②特別任用助教



大澤 香
(おおさわ かおり)
①研究開発推進機構
及び神
②特別任用助教



村上 由希
(むらかみ ゆき)
①研究開発推進機構
②特定任用研究員
助教



宮崎 晴子
(みやまき はるこ)
①研究開発推進機構
②特定任用研究員
助教



山中 智行
(やまなか ともゆき)
①研究開発推進機構
②特定任用研究員
准教授



眞部 寛之
(まなべ ひろゆき)
①研究開発推進機構
②特定任用研究員
准教授



中瀬 浩一
(なかせ こういち)
①免許資格課程センター
及び心理
②任期付准教授



宮武 慶之
(みやたけ よしゆき)
①研究開発推進機構
及び文化情報
②助手



河野 尚子
(こうの なおこ)
①研究開発推進機構
及び法
②助手



岩月 真也
(いづつき けんや)
①研究開発推進機構
及び社会
②助手



米本 雅一
(よねもと まさかず)
①研究開発推進機構
及び文
②助手



久野 譲太郎
(くの じょうたろう)
①研究開発推進機構
及び文
②助手



北村 徹
(きたむら てるつ)
①研究開発推進機構
及び神
②助手



伴 碧
(ばん みどり)
①研究開発推進機構
及び心理
②特別任用助教

退職教員 2015年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 文学部 宮庄 哲夫 教授
- 文学部 中山 善樹 教授
- 文学部 根岸 一美 任期付教授
- 文学部 入江 さやか 任期付助教
- 文学部 水越 知 任期付助教
- 社会学部 渡辺 武達 教授
- 社会学部 楊 奕 任期付准教授
- 法学部 岩野 英夫 教授
- 法学部 竹本 知行 任期付助教
- 経済学部 篠原 総一 教授
- 商学部 平勝 廣 教授
- 商学部 嶋田 巧 教授
- 商学部 古賀 智敏 特別客員教授
- 商学部 小山 治 任期付助教
- 商学部 佐野 楓 任期付助教
- 政策学部 安善 姫 任期付准教授
- 政策学部 壬生 裕子 任期付助教
- 文化情報学部 西倉 美季 任期付助教
- 文化情報学部 大田 靖 任期付助教
- 文化情報学部 安田 晶子 任期付助教
- 理工学部 日高 重助 教授
- 理工学部 伊藤 正行 教授
- 理工学部 山下 正和 教授
- 理工学部 道越 秀吾 任期付助教
- 理工学部 荒尾 与史彦 任期付助教
- 理工学部 宋 光輝 任期付助手
- 理工学部 実験実習センター 松尾 豊樹 実験講師
- 理工学部 実験実習センター 吉川 善直 実験講師
- 生命医科学部 井原 康夫 教授
- 生命医科学部 大宮 眞弓 教授
- 生命医科学部 力丸 裕 教授

- 生命医科学部 高橋 智幸 教授
- 生命医科学部 井上 望 教授
- 生命医科学部 山本 詩子 任期付助教
- グローバル・コミュニケーション学部 日野 みどり 教授
- グローバル・コミュニケーション学部 テボラ フォアマン タカノ 准教授
- グローバル・コミュニケーション学部 Dale John WARD 任期付助教
- グローバル・コミュニケーション学部 Paul CARTY 任期付助教
- グローバル地域文化学部 伊野 裕 教授
- グローバル地域文化学部 油谷 幸利 教授
- グローバル地域文化学部 三原 芳秋 准教授
- グローバル地域文化学部 Kenneth Kwun Pang CHAN 任期付助教
- グローバル地域文化学部 金亨 貞 任期付助教
- 司法研究科 早川 勝 教授
- 司法研究科 西村 健一 教授
- 理工学研究科 林 隆夫 教授
- アメリカ研究所 野口 久美子 任期付助教
- 日本語 日本文化教育センター 石田 裕子 任期付助教
- 日本語 日本文化教育センター 竹島 奈歩 任期付助教
- 研究開発推進機構 島田 秀輝 特定任用研究員B 准教授
- 高等研究教育機構及び心理学部 小松 さくら 特別任用助教
- 高等研究教育機構及び文学部 濱 良祐 助手
- 高等研究教育機構及び文学部 村上 真樹 助手
- 高等研究教育機構及びグローバル地域文化学部 皆川 萌子 助手

本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

- フランスの憲法判例 勝山教子 他著 信山社出版 4,800円
- フランスの憲法判例2 勝山教子 他著 信山社出版 5,600円
- ソーシャルワークにおける「生活場モデル」の構築 空閑浩人 著 ミネルヴァ書房 6,000円

会社裁判にかかる理論の到達点

はじめての流通

- 阿多博文 他編著 伊藤靖史 他著 商事法務 12,000円
- 崔容薫 他著 有斐閣 1,900円
- 国際刑事裁判所 第2版 新井京 他著 東信堂 4,200円
- 現代アメリカ 和泉真澄 他著 新曜社 2,400円
- 基本刑法II 各論 十河太郎 他著 日本評論社 3,900円

国際環境条約・資料集

坂元茂樹 他編 東信堂 8,600円

ドイツ環境史

服部伸 他訳 昭和堂 2,800円

マンガ・アニメ文献目録

竹内長武 監修 日外アソシエーツ 23,000円

20世紀1945年以後

オックスフォードブリテン諸島の歴史II

菅城 他訳 慶應義塾大学出版会 6,400円

世阿弥の世界

植木朝子 他著 京都観世会 1,500円

20世紀中国政治史の視角と方法

浅野亮 他著 大阪大学中国文化フォーラム

Basic income in Japan

山森亮 他編著 伊多波良雄 他著 Palgrave Macmillan 18,600円

必要の理論

山森亮 他監訳 勁草書房 3,200円

社会福祉研究のフロンティア

木原浩信 空閑浩人 他著 有斐閣 2,400円

離婚紛争の合意による解決と子の意思の尊重

高杉直 他著 日本加除出版 3,300円

徹底解剖国家戦略特区

浜矩子 他著 コモンズ 1,400円

犯罪タイポロジー 第2版

川崎友巳 著 成文堂 1,900円

川端博先生古稀記念論文集 上巻

松原久利 奥村正雄 十河太郎 他著 成文堂 25,000円

川端博先生古稀記念論文集 下巻

川本哲郎 川崎友巳 洲見光男 他著 成文堂 25,000円

「共同研究」近代世界システムと新自由主義グローバルリズム

菊池恵介 他編著 作品社 2,400円

リアリズムの条件

乗松平 著 水声社 4,000円

コサク

乗松平 著 光文社 876円

進化する運動科学の研究最前線

北條達也 中村雅俊 他著 エヌティーエス 30,000円

イギリス文化事典

圓月勝博 下楠昌哉 他著 丸善出版 20,000円

近代学問の起源と編成

飯田健 他著 勉誠出版 6,000円

フィヒテを読む

中川明才 訳 晃洋書房 2,200円

粉体ナノ粒子の創製と製造・処理技術

森康維 他著 テクノシステム 48,000円

ソーシャル・イノベーションが拓く世界

中野民夫 他著 法律文化社 2,600円

エスニック研究のフロンティア

白川恵子 他著 金皇堂 3,000円

ケースで学ぶ国際私法 第2版

高杉直 他著 法律文化社 3,200円

講義 物権・担保物権法 第2版

安永正昭 著 有斐閣 3,800円

判例講義 民法I 総則・物権 第2版

安永正昭 他編著 大中有信 他著 悠々社 3,600円

判例講義 民法II 債権 第2版

安永正昭 他編 悠々社 3,600円

極限環境の生体分子

木村佳文 他著 化学同人 3,800円

労働法第12版

西村健一郎 他著 有斐閣 2,300円

英国地図製作とシエイクスピア演劇

勝山貴之 著 英宝社 3,200円

密教寺院から平等院へ

井上一穂 他解説 小学館 15,000円

テキストマイニングによる言語研究

矢野環 他著 ひつじ書房 6,700円

幕末・維新の西洋兵学と近代軍制

竹本知行 著 思文閣出版 6,300円

図解燃料電池技術

稲葉稔 他著 日刊工業新聞社 2,000円

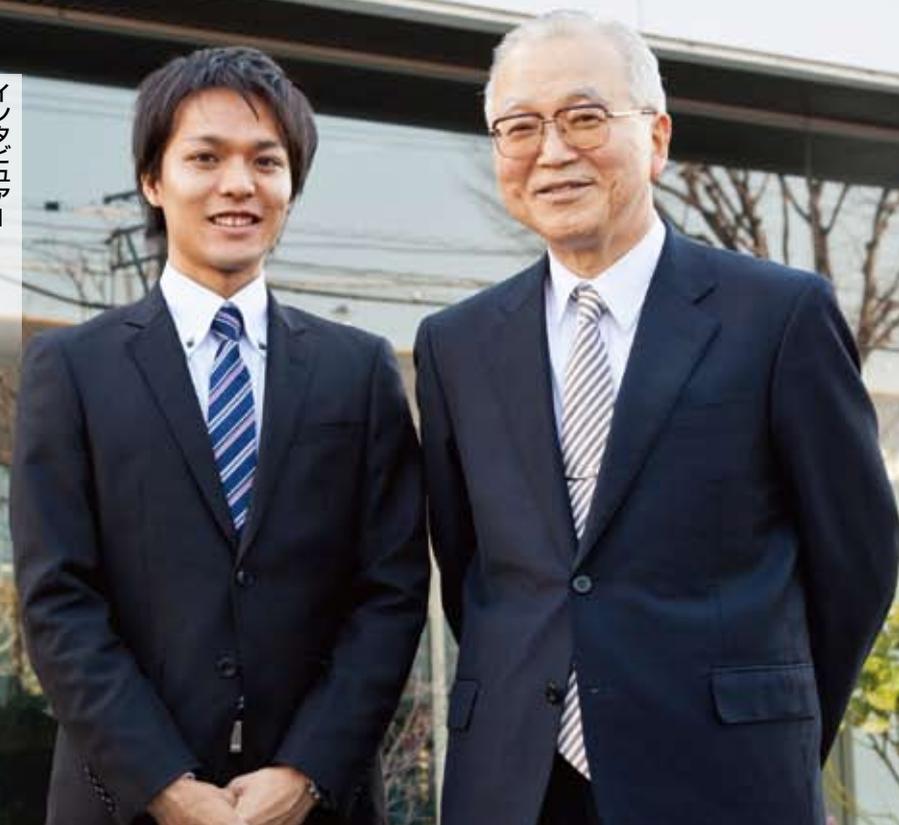
近現代3 岩波講座日本歴史第17巻

小川原宏幸 他著 岩波書店 3,200円

新・金融商品取引法読本

川口恭弘 他著 有斐閣 3,700円

株式会社半導体エネルギー研究所 代表取締役 工学博士

山崎 舜平さん
に聞く

インタビュー
横井 康弘さん
【理工学部電気工学科4年次生】

横井 ● 山崎さんは私と同じ電気工学科(当時工学部電気学科)のご出身ですが、まず学生の頃の思い出を聞かせてください。

山崎 ● 正直に言いますと、私は高校までとても出来が悪くて、劣等生でした。受験した大学を全部落ち、受かったのが唯一同志社大学だけ。そうして入った大学で、私は2人の先生に出会いました。1人は同志社ハリス理化学校の卒業生で、エレクトロニクス機器の電子回路に欠かせないフェライトの発明者としても有名な加藤与五郎先生です。加藤先生が毎年夏に軽井沢で「創造科学教育夏期研修」を実施されていて、1年次は成績が悪くて行かせてもらえなかったのですが、2年次に何とか行くことができ、そこで初めてお会いしました。もう1人は、同志社女子大学の初代学長だったE・L・ヒバード先生。当時、先生が主宰されていた英語聖書研究会というのがあり、英語の勉強をしようという単純な理由で行ってみたのが最初です。ヒバード先生には結婚式にも出ていただいたり、同志社を出てからもプライベートでお付き合いをさせていただきました。その2人に会えなかったら、今の私はないと思っています。

今回の同志社人

山崎 舜平さん

【1965年 工学部電気学科卒業
1967年 工学研究科修士課程修了】

1942年生まれ。大学院在学中の1970年に「フラッシュメモリー」として知られる不揮発性メモリーを発明。以来、シリコン関連テクノロジーの研究開発に従事。1971年工学博士取得、東京電気化学工業(現TDK)入社。1980年に半導体エネルギー研究所(SEL)を設立し、代表取締役就任。2007年に英国Synectics社の発表する「世界の100人の生きている天才」で第58位に選ばれる。2011年3月には特許取得数世界一(6,314件)として、2004年に認定された自身のギネス世界記録を更新。同志社大学名誉文化博士。

横井 ● 加藤先生はどんな方だったのですか。

山崎 ● 加藤先生は不思議な人でした。私に「1番の成績を取りたいならその方法を教えてあげる」と言うのです。「どうやるんですか」と聞くと、「君が先生になったつもりで、これは理解してほしいという問題を考えなさい。それが問題として出れば、必ず満点が取れる」と。実際、その通りにやると、1年次には平均90点を超えました。そうすると、今度は「君に才能があることはわかった。これからは勉強してはいけない」と言うんですね。その代わり何をやるのかというと、「研究をきなさい」と。それは自分で考えるということです。教えられた知識には答えがあります。そう

ではなくて、答えがあるかどうかかわからない事柄を考えるとということなのです。

横井●もしかしたら山崎さんのことをよくわかってもらったのではないのでしょうか。

山崎●そうでしょうね。4年次になって私が「留学したい」と言うと、加藤先生はものすごく怒ったのです。今でも覚えているのですが、「私ほど君の才能と性格をわかかって教育をしている人は世界中どこを探してもいない。留学する必要はない。私が指導する」と言われました。私にとっては加藤先生は怖い存在でしたが、逆にヒバード

先生はとても優しいお母さんでした。加藤先生に怒られた愚痴を全部聞いてくれた。

加藤先生しかいなかったら、私はへこんだままだったかもしれません。ヒバード先生が慰め役をしてくれたから、何とかやって来れたような気がします。

横井●2人の先生に育てられたということですね。

山崎●加藤先生がよく言っていたのは、「天与の才を活かせ」ということです。「天から与えられた才能を活かしなさい」と。今の若い人たちはみんな、自分が持つて生

まれた才能を認識していません。先生はこの人が持つて生まれた才能はこういうものだ、本人も

認識していない才能を引き出してあげられる人です。教え育成するというのはなく、天与の才を引き出す。だからこそ、私自身が認識していないある種の才能も、加藤先生はわかっていたのでしようね。

横井●そして大学時代にフラッシュメモリの発明をされました。

山崎●私が博士課程1年次の時に、加藤先生が亡くなられました。何とか恩返しをしたいと思っただけですが、必死に研究をして成果を出すという以外に恩返しの方法はありません。私が研究のテーマに選んだのが半導体でしたから、その関係を徹底的に調べていくと、今までの理論と違う事柄がいくつも見つかるのです。当時はまだ半導体は黎明期でしたから。そこで研究を進めていって、不揮発性メモリーの発明にたどり着きました。まさに、先生の教えである物事の本質を見抜く訓練が続けていたからこそその成果でした。もし加藤先生がご存命だったら、すごく喜んでいただけたらと思います。

横井●その後、現在の半導体エネルギー研



究所を設立されたわけですが、今、お仕事をしたいと信条とされているものがありますか。

山崎●これを言うときみんな笑うのですが、私が天国に召されて加藤先生に会った時に、「君は私の弟子としては出来が悪いね」と言われたくないのです。「仕方がないか、これくらいで許してあげるよ」というくらいに言ってもらえるかどうか。それがすべてのエネルギーの元ですね。



横井 ● 私は卒業後、大学院に進む予定ですが、その後は一般企業で研究職に就きたいと思っています。例えば御社では今後、どんな人材を求めておられるのでしょうか。

山崎 ● 結局、自分の天与の才は何かというのを、学生時代に学んでわかった人ですね。何かわからないまま大学に行って、何かわからないけど就職しました、というのではないけません。学生時代に自分の才能はどんなものか、それがわかった人は、人生を迷うことなくまっすぐに進んで行けます。それが学生生活の最大のミッションだと思います。自らの才能を発見して、自分を律し、厳しく見つめていける人は、いろんな分野で第一級の人になります。ただ、当社は研究開発の会社ですから、未知のものに挑戦するという意志がないとだめです。

横井 ● 山崎さんは優れた研究者であると同時に、会社の経営者でもあります。両者の才能は違うと思うのですが。

山崎 ● 割と似ていますよ。このまま行くと会社が倒産するという状況になった場合、何ができるか、何をすべきか、徹底的に調

べた上で決めるのは自分自身です。その時に重要なのは、物事の本質を見抜く目が養われているかどうかです。この道を行けば危ない、こっちは道は苦しいが安全らしい、分かれ道に来た時にどちらを選ぶかです。引き返すか、そのまま突っ走るか、その見極めです。人生には戻ることのできる道がいくつもあります。分かれ道もたくさん出てきます。その時に後悔しないような選択をしないといけない。社員を育てるという点でも、その人に後悔させないようにならなければならない、というのが、私のすべての原点ですね。

横井 ● 最後に在学生に何かアドバイスをいただけますか。

山崎 ● 加藤先生は「清い心を持ちなさい」

と言われました。清い心を持つと何があるか、物事の本質が見えるのです。そして、本質が見えた後でそれをやるかやらないか。本質と自分が持つて生まれた才能とは、ほとんどは違うのです。違うのですが、こういう方向に行けば、自分の才能はこう活かせるという道筋がつけられればいい。例えば、私がオリンピックのフィギュアスケートで金メダルを獲ろうなんて思ってもどうしようもないでしょう。自分の大体の領分はあるわけです。その中で自分の天与の才はこれだ、物事の本質はこれだと。後はそれらをどううまく結びつけるかです。

横井 ● ぜひ今後の学生生活の参考にさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。



INTERVIEWER

横井 康弘さん

理工学部電気工学科 4年次生

愛知県出身。昨年夏、加藤与五郎博士が始め、山崎舜平さんが支援する、軽井沢の「創造科学教育夏期研修」に初めて参加、山崎さんの薫陶を受けた。大学院では超音波を使った生体内の分子イメージングや治療が可能な超音波造影剤の開発を研究していく予定。

本質を見極める目を養い、将来は世の中の役に立つ研究者に

山崎さんには昨年夏に軽井沢でお会いしていますが、直接お話を伺ったのは初めてでした。天才だと思っていたので、劣等生だったというのが意外でしたが、研究者としてのスケールの大きさに圧倒されたというのが正直な気持ちです。本質を見極めるというのは簡単ではないと思いますが、それをしっかりやりなさいというメッセージをいただいたと感じました。ゼロから新しいものを生み出す軽井沢での研修は、それまで経験のない創造力を駆使することを徹底的に鍛えられた2週間でした。それ以来、普段からこんなことがあったら便利だ、じゃあどうしたらいいのだろうと考えることが多くなったような気がします。将来は研究者を目指していますが、世の中の役に立つために研究しているという意識は常に持っていたいと思います。

狭き門の文化行政職に果敢に挑戦。 文化を通して地域を元気にしたい。

私が歴史・文化を扱う仕事をスタートさせたのは、長崎市役所の文化財課でした。京都府出身の私が長崎を選んだのは、江戸時代、国際貿易都市として発展し、江戸や京都と並んで輝いていた歴史を持つまちだったからです。運良く文化行政に関わる仕事に就けましたが、このような仕事は門戸が狭く、私も就職活動ではとても苦勞しました。

長崎での仕事で印象に残っているのは、軍艦島の世界遺産推薦に関わったことです。波や潮風にさらされて損傷が激しい島の高層建築物の耐久性を調査するため、月に1回程度、屋上に設置した計測装置のデータを取りに漁船で通いました。屋上へ上がると、眼前に五島灘が広がり、とても美しかったことを覚えています。また、長崎には幕末から明治にかけて建てられた洋館が数多く残っており、その活性化のために、地元の商店街の人たちと一緒に居留地まつりを開催。まつりを一緒に作り上げていく中で、しばしば市役所は意思決定が遅いとお叱りを受け、スピード感を持って対応することの大切さを痛感しました。

長崎市役所に入った2年目には長崎県庁の文化振興課に派遣となり、日中友好の

シンボルとなる「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」の開設準備を担当。また、全国の公立博物館で初めて事務部門と学芸部門の両方を民間企業に指定管理させた長崎歴史文化博物館を担当し、民間のノウハウを活用してサービス向上とコスト削減を図る方法を実地で学びました。

そのまま長崎で文化行政に携わっていく選択肢もあったのですが、やはり私には地元の歴史文化の発展に貢献したいという思いがありました。ちょうど京田辺市が歴史・文化の専門的知識を持った職員を募集していると知り、採用試験に応募。採用枠1人の難関を突破し、転職したのが2013年4月です。

現在は、京田辺市教育委員会、市の文化振興計画策定事業や歴史資料活用事業などを担当しています。文化振興計画策定事業は、文化の薫る心豊かなまちづくりを実現するために、ソフト・ハードの両面にわたる文化振興の基本指針をつくるというものです。文化振興計画の策定に向けて文化振興懇話会を設置し、市民へのアンケート調査や市民団体へのヒアリング調査などをしながら、一歩ずつ進めています。また、歴史資料活用事業では、市民・大学・行

政の三者が協働して、市所有の古文書などを整理しています。

社会に出て長崎市役所、長崎県庁、京田辺市教育委員会の3つの組織で文化行政に携わる中で、文化には人々に元気を与え、地域社会を元気にする可能性があることを実感しました。今は文化を通して地域を活性化したいければ、と強く思っています。

京田辺市役所

松本 勇介さん

【2007年 文学部文化学科文化史学専攻卒業】

京田辺市教育委員会教育部教育総務室 企画係歴史文化担当 主事

同志社中学・高校出身。高校時代に読んだ民俗学者・宮本常一の代表作「忘れられた日本人」に感銘を受け、前近代の庶民の生活を多角的に学びたいと思い、歴史学を軸に民俗学や考古学も学べる文化史学専攻(現文化史学科)に入学。大学時代の思い出は、1年次の「文化史基礎演習」で小豆島の農村歌舞伎をフィールドワークしたことで、「江戸時代から続く農村歌舞伎を守り伝える地域の人たちの情熱に心を打たれました」と語る。4年間で卒業に必要な単位の倍近い単位を取得するなど、自身「勉強の虫でした」と苦笑する。学んだことが仕事に直結し、自分の好きな分野に関わり続けているという点では、恵まれていると言えるかもしれない。在学生には「まとまった時間が取れる学生のうちにいろんなことにチャレンジして欲しい」と、自分自身の反省を込めてアドバイスを送る。

国際貢献から地域の活性化へ。 人と地域をつないで日本を元気にしたい。

大学時代に国際貢献ということに興味を

持ち、2年次の夏頃から海外を旅してきました。卒業時、国際貢献に関わっている団体やNGO、NPOを回ったのですが、こういうところがなく、自分でビジネスを興そうと考えました。そのためにもまず一般企業でビジネスの基礎を身につけようと思い、転職支援を行うリクルートエージェント(現リクルートキャリア)に入社。3年間、採用支援業務に従事した後、国際貢献を仕事にしていくには、取り組むべき場所や社会課題を自分の足で歩き、目で見て決めたいと考え、それを探す目的で再び海外への旅に出ました。

しかし、アジア、中南米、アフリカ…地球を一周半する形で旅をしている間に、日本と日本人について考えさせられる体験を重ね、海外よりも日本に対して何かをすべきなのではないかという気持ちが芽生えていったのです。旅に出る前に起こった東日本大震災、小学生の時に遭遇した阪神淡路大震災も影響しています。そして帰国後、前職時代の先輩がインターンをした兵庫県丹波市を訪ねた時、高齢化の波が押し寄せている中で、30、40代の人たちがふるさとに帰って来て町のた

めに頑張っている姿を見ました。日本に対して悲観的な思いを抱いて帰って来ましたが、私が知らないだけで地域ではいろんな人たちが活動していて、それらが実っていけば、日本が再生していく光になるのではないかなと思ったのです。

そんなふうにごく始めた時に、「京都府ソーシャルビジネス人づくり事業」という、社会的事業で独立・開業を促進する人を育てる制度があることを知りました。そこで半年間研修した後、前職での経験を活かして海外で働きたいという希望を持っている人のグローバルキャリア教育や、移住を含めた都市部から地域への転職支援などを行う「ローカルキャリアカフェ」を立ち上げたのです。

「海外・都市・地域」をキーワードとして、現在は主に地域側のサポートを行い、アドバイザー的立場で携わっています。その地域をどうしていきたいのか、どんな人に移住してきてほしいのかを地域の人たちと一緒に考え、しかるべき情報を、しかるべき人に、しかるべきタイミングで伝える。必要であればイベントを企画・実行し、実際に移住したいという人と移住してきてほしい地域をつな

いでいます。

今後の方向として今考えているのは、良いものをきちんと作っている農業従事者の支援と、国内にある様々な素晴らしい景色や文化を海外の人びとが理解できる形で伝えること。「海外・都市・地域」をフラットに見ることが出来る立場として、それぞれをうまくつないでいく。異なる人と異なる地域人を結びつけていくことで、日本に少しでも貢献ができれば、と考えています。



川人 ゆかりさん【2008年 商学部卒業】
ローカルキャリアカフェ代表

中学・高校とバンドで音楽に熱中していたが、大学に入って初めて海外を旅した時に「不自由さからくる自由、誰も知らないところで1日1日を自分で選び取って暮らす、何の保証もなく、いわばロールプレイングゲームを自分が主人公になってやっていくような感覚や、異なる価値観を持つ人との出会い」が楽しく、嗜好が音楽から旅にシフトした。卒業してからの海外への旅では、南米のコロンビアで麻薬中毒者の更生に関わっている日本人と出会い、合計3カ月程コロンビアで生活。ソーシャルビジネスを立ち上げ、そのまま住み続けることも考えたが、命に関わるアクシデントに巻き込まれたことをきっかけにふるさとへの思いが強くなることに気付く。帰国を決意。1人で世界を歩き、自らビジネスを興した生き方を、そのまま後輩がまねることは難しいが、「思いを持って挑戦し続けたい何事も叶うと思っているので、なかなかうまくいかなくても、その仕事が見たいのならばずっとやり続けてほしい」という言葉は、実体験に裏打ちされた助言としてしっかり噛み締めた。

- 5月3日(日) リーグ戦 第5戦・Extra Match 第5戦
- 5月10日(日) リーグ戦優勝決定戦 / 3位決定戦 / 入替戦 (男子)
- 4月5日(日) リーグ戦 第1戦・Extra Match 第1戦
- 4月12日(日) リーグ戦 第2戦・Extra Match 第2戦
- 4月19日(日) リーグ戦 第3戦・Extra Match 第3戦
- 4月26日(日) リーグ戦 第4戦・Extra Match 第4戦
- 5月3日(日) リーグ戦 第5戦・Extra Match 第5戦
- 5月10日(日) リーグ戦優勝決定戦 / 3位決定戦 / 入替戦

【アメリカンフットボール部】

- 4月11日(土) 今出川ボウル
場所: 京都大学農学部グラウンド 対戦相手: 京都大学 Gangsters
- 5月17日(日) 西日本学生大会
場所: EXPO FLASH FIELD (大阪府) 対戦相手: 大阪教育大学 DRAGONS
- 5月31日(日) 西日本学生大会
場所: 王子スタジアム(兵庫県)

【自転車競技部】

- 4月4日(土) 全日本学生TRC第1戦 場所: 日本CSC (静岡県)
- 4月18日(土) ~ 19日(日) 全日本学生RCS第1戦 場所: 長野県飯山市
- 4月25日(土) 全日本学生選手権クリテリウム大会
場所: 滋賀県東近江市ふれあい公園
- 4月26日(日) 全日本学生RCS第2戦 場所: 滋賀県東近江市ふれあい公園
- 5月8日(金) ~ 9日(土) 西日本学生選手権トラック自転車競技
- 5月16日(土) 全日本学生TRC第2戦 場所: 日本CSC (静岡県)
- 5月16日(土) ~ 17日(日) 全日本学生RCS第3戦 場所: 日本CSC (静岡県)
- 5月24日(日) 全日本学生RCS第4戦 場所: 京都府日美山町
- 5月31日(日) 全日本学生選手権チームTT大会
場所: 埼玉県加須市 羽生市 利根川河川敷

【射撃部】

- 5月8日(金) ~ 10日(日) 春季全関西学生ライフル射撃選手権大会
場所: 能勢町国体記念スポーツセンター (大阪府)

【水泳部】

- 4月7日(火) ~ 12日(日) 第91回日本選手権水泳競技大会 兼 第16回世界水泳選手権代表選手選考会 兼 第28回ユニバーシアード代表選手選考会 兼 第5回世界ジュニア水泳選手権代表選手選考会
場所: 東京辰巳国際水泳場
- 5月22日(金) ~ 24日(日) ジャパンオープン2015 (50m)
場所: 東京辰巳国際水泳場

【相撲部】

- 4月29日(水) 全日本学生選抜相撲宇和島大会
場所: 宇和島市営体育館(愛媛県) 9:00
- 5月3日(日) 全国大学選抜相撲宇佐大会
場所: 宇佐市総合運動場(大分県) 9:00
- 5月5日(火) 全国選抜大学・社会人対抗相撲九州大会
場所: 福岡久山相撲場 9:00
- 5月10日(日) 全日本学生相撲新人選手権大会
場所: 堺市大浜公園相撲場(大阪府) 13:00
- 5月17日(日) 全国選抜大学・実業団対抗相撲和歌山大会
場所: 和歌山県営相撲場 9:00

【フェンシング部】

- 4月11日(土) ~ 12日(日) フルーレリーグ 場所: 大山崎体育館(京都府) 9:00
- 5月9日(土) ~ 10日(日) サーブルリーグ 場所: 大阪市中央体育館 9:00
- 5月15日(金) ~ 16日(土) エペリーグ 場所: 知多市民体育館(愛知県) 9:00

【レスリング部】

- 4月4日(土) ~ 5日(日) ジュニアクイーンズカップ 場所: 舞鶴体育館(京都府)
- 4月25日(土) ~ 26日(日) JOC杯ジュニアオリンピック
場所: 横浜文化体育館(神奈川県)

熊本キャンプ参加者募集

同志社開校の翌年、熊本洋学校の卒業生や在校生約40人が同志社に入学しました。彼らはのちに日本のキリスト教史上「熊本バンド」と呼ばれることになる秀才揃いで、「同志社のもうひとつの源流」を作ったと言えるほどの強烈な個性をもつ存在です。この熊本キャンプでは、彼らの生き様や熊本と同志社の関わりを、事前学習や現地での研修を行

うことによって学び、同志社を見つけ、自らを省みる時間をもつことを目指しています。

【実施期間】 9月9日(水) ~ 11日(金)の2泊3日

【お申し込み】 5月中旬 ~ 6月上旬(予定)

【募集人数】 20人程度

【参加費用】 20,000円程度

【説明会】 今出川 5月12日(火) 12時30分 ~

キリスト教文化センター集會室(クラーク記念館1階)

京田辺 5月13日(水) 12時30分 ~

キリスト教文化センター・セミナー室(同志社京田辺会堂光館)

【お申し込み・お問い合わせ先】

今出川校地キリスト教文化センター TEL: 075-251-3320

京田辺校地キリスト教文化センター TEL: 0774-65-7370

第33回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を訪れます。新島襄の生き方に触れ、人と人とのふれあいの中で自分自身を見つめ直そうという趣旨で行われます。学生が主体となって作り上げるプログラムです。

【実施期間】 8月中旬 ※出発前に5回程度のミーティングを行います。

【お申し込み】 4月下旬 ~ 5月下旬

【参加費用】 29,000円(予定)

【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

※今出川校地、京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。詳細は後日HP等でお知らせします。

ROOM記念館プロジェクトメンバー募集!

同志社ROOM記念館では、IT・メディアの活用やデジタルコンテンツの制作など、様々なテーマでプロジェクトが活動しています。活動期間は1年間で、現在、本年度採択された新規プロジェクトに参加するメンバーを募集しています。同志社大学・同志社女子大学の学生を中心に、学部・学年の枠を越えた多様なメンバーが集まるプロジェクトで、新しいことにチャレンジしてみませんか? プロジェクトの一覧やメンバー申込票のダウンロードは、ROOM記念館webサイト(<http://rohm.doshisha.ac.jp>)から。メンバー募集に関するイベントにも是非ご参加ください。

<メンバー募集プログラム>

- 4月2日(木) 10:00 ~ 16:00、3日(金) ~ 4日(土)・6日(月) 10:00 ~ 15:00

「プロジェクト説明会」
ROOM記念館入り口付近でブースを出展します。

- 4月16日(木) 16:45 ~ 19:00

「プロジェクト交流会」
劇場空間でのプロジェクト紹介の後、どなたでも参加できる交流会を開催します。(軽食付)

- 4月13日(月) ~ 17日(金)・20日(月) ~ 24日(金) 15:00 ~ 18:30

「プロジェクト個別説明会」
各プロジェクトが活動拠点としているプロジェクトルームにて個別に説明会を行います。

各イベントの詳細はwebサイトや広報誌「ippo」をご覧ください。

【お問い合わせ先】 京田辺校地総務課(ROOM記念館事務室)

TEL: 0774-65-7800

E-mail: jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp



障がい学生支援制度 サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立ち、責任をもって支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・映像字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。活動時間にあわせて、謝礼をお支払いいたします(890円/時間)。その他行事・イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP (<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

障がい学生支援室(今出川) TEL: 075-251-3273

E-mail: ji-care@mail.doshisha.ac.jp

障がい学生支援室(京田辺) TEL: 0774-65-7411

E-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで御用大工棟梁中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を公家高松保実が所有していました。1875(明治8)年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、学校は旧薩摩藩邸跡に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878(明治11)年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開します。

【公開期間】① 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月 毎週 火・木・土曜日(祝日は除く)

② 特別公開 春・秋(御所の一般公開期間)、オープンキャンパス、ホームカミングデー、同志社創立記念日、卒業式

※公開日の詳細はHPをご覧ください。http://archives.doshisha.ac.jp

【公開時間】10:00～16:00(入館受付は15:30まで)

【見学対象】① 通常公開 旧邸周囲から建物内部を見学(建物内にはあがれません)

② 特別公開 旧邸周囲及び建物内部(母屋1階と附属屋)に入場可

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入場料】無料

【場所】京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください(電話受付は10:00～16:30)。

【団体申込・お問い合わせ先】ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局(日・月・祝日は閉室)

TEL:075-251-2716 FAX:075-251-2736

E-mail:n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

新入学生歓迎特別講演会

各界で活躍の方をお招きし、学生生活を送るにあたっての温かいメッセージを頂戴します。

● 箭内道彦氏(クリエイティブディレクター)

【日時】4月20日(月) 15:00～16:30(14:30 開場)

【場所】今出川校地 良心館 RY107教室

京田辺校地 情報メディア館JM401教室(テレビ中継)

※会場は変更になる場合があります。

【テーマ】「大学生になる君へ。そして、29年前の僕へ。」

ハリス理化学館同志社ギャラリー第6回企画展

同志社創立140周年記念 はじまりの地ーラットランドから寺町丸太町、今出川へー

【期間】2015年4月21日(火)～6月21日(日)

【時間】10:00～17:00(入館は16:30まで)

【閉室日】月曜日、祝日、GW(4月29日～5月5日)

【場所】ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室

【主催】同志社大学同志社史資料センター

会期中に、公開講演会などの企画展関連イベントを予定しています。

詳細が決まり次第、HPやチラシなどでお知らせします。

ハリス理化学館同志社ギャラリーHP (http://harris.doshisha.ac.jp/)

【お問い合わせ先】ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局(月・祝日は閉室)

TEL:075-251-2716

Email:ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット) = "What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員はすべて無料

● 4月16日(木) 映画上映『SHOAH ショア』

1985年/フランス/カラー/デジタル/計567分(第1部 154分・第2部 120分・第3部 146分・第4部 147分) / 監督:クロード・ランズマン
10:00 第1部 / 13:00 第2部 / 15:30 第3部 / 18:30 第4部
料金(当日のみ) : 一般 1,500円 学生 1,200円
Hardience会員 1,000円

『SHOAH』4作通し券 4,000円 *同志社大学での上映のみ有効

● 4月23日(木) 映画上映『美女と野獣』 10:45/13:30/16:00/18:30
2014年/フランス=ドイツ/113分/監督:クリストフ・ガンズ/
出演:リア・セドゥ、ヴァンサン・カッセルほか
料金:一般 1,300円 Hardience会員・他学生・前売 1,000円

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週木曜日、〈日・EUフレンドシップウィーク〉などの催しを予定しています。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します(デジタル上映)。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

● 4月14日(火) 『タージ・マハル旅行団「旅について」上映&トーク』

16:00 オリジナル版上映 18:00 再編集版上映

19:40 トーク ゲスト:大野松雄(音響デザイナー)、由良泰人(映像作家)

料金:1,000円均一

● 4月21日(火) 『映画としての音楽』アークスモニウム上映

19:00 『映画としての音楽』アークスモニウム上映

2014年/日本/56分/監督:七里圭、アークスモニウム演奏:檜垣智也

*上映後にアフタートークあり ゲスト:七里圭(映画監督)、

檜垣智也(作曲家・電子音楽家)、司会:進行:川崎弘二(電子音楽研究者)

料金:1,000円均一

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪ ー学生団体4月～5月の活動予定ー

【学内】

● 4月7日(火) 喜劇研究会「お笑いライブ」

寒梅館 クローバーホール 12:30～13:10(12:00 開場) 無料

● 4月11日(土) 交響楽団「新入生歓迎コンサート」

寒梅館 ハーディーホール 無料

● 4月14日(火) マジック&ジャグリングサークル Hocus-Pocus「新歓ステージ」

寒梅館 ハーディーホール

● 5月上旬 同志社小劇場「新入生歓迎公演」

新町キャンパス 新町別館小ホール

● 5月3日(日) ギタークラブ「第53回ジョイントコンサート」

寒梅館 ハーディーホール 16:30～20:00(16:00 開場) 無料

● 5月10日(日) KOREA文化研究会「チャリティーコンサート」

寒梅館 ハーディーホール

● 5月15日(金) neuf「ファッションショー」

寒梅館 クローバーホール 12:40～(12:15 開場) 無料

● 5月17日(日) ギタークラブ「同弦会コンサート」

寒梅館 ハーディーホール 13:30～16:30予定(13:00 開場予定) 無料

● 5月27日(水) 喜劇研究会「お笑いライブ」

寒梅館 クローバーホール 13:00～14:30(12:30 開場) 無料

【学外】

● 4月19日(日) マンドリンクラブ

「全日本マンドリン連盟・京都ブロック第52回合同演奏会」

京都府長岡京記念文化会館

● 5月30日(土) マンドリンクラブ「第166回定期演奏会」

京都府長岡京記念文化会館 18:00～(17:30 開場) 入場料 500円

応援に行こう!～体育会試合日程

【アーチェリー部】

(女子)

● 4月5日(日) リーグ戦 第1戦・Extra Match 第1戦

● 4月12日(日) リーグ戦 第2戦・Extra Match 第2戦

● 4月19日(日) リーグ戦 第3戦・Extra Match 第3戦

● 4月26日(日) リーグ戦 第4戦・Extra Match 第4戦

「第3回U-23アジア選手権大会」

男子フルーレ団体で優勝

個人でも頂点を目指し、次に狙うのは東京五輪の表彰台

昨年10月、フィリピン・マニラで開催されたフエンスの「第3回U-23アジア選手権大会」。日本代表は男子フルーレの団体で初めての優勝を果たした。全国の23歳以下の選手から選ばれた、その日本代表の大学生4人の中に、2人の同志社大生がいた。古田唯二郎さん(商学部1年次生)と、団体戦を戦った金メダル獲得メンバーの1人、西村拓也さんだ。

1回戦から決勝まで、危なげなく勝ち上がって来た日本代表は、ファイナルの香港戦、序盤にリードを奪い、終盤に追い上げられたものの最後にエースの選手が着実にポイントを稼ぎ、食い下がる香港を突き放した。

「団体戦に出場した法政の東哲平君、立命館の中川凌君の2人とも、同学年で高校時代から戦ってきた仲なので、チームワークはよかったです。実は、決勝には強敵の韓国が上がってくるものだとばかり思ってたんですけど、香港だったので、香港だったのでラッキーでした。ただ、個人戦で誰もメダルが取れていなかったのが、危機感がありました。日本が得意とするフルーレで個人、団体ともメダルなしで終わるのは屈辱ですから」。

こう話す西村さんがフエ

ンシングを始めたのは中学からと、小学生で始める選手が多い中では少し遅い。受験して入った大阪の私立中学にフエンス部があり、人とは違ったスポーツがしてみたいと入部した。しかし、進学校でスポーツより勉強が大事という環境だったため、「もっとフエンスがやりたい」と、地元・大阪の公立中学に転校。先輩の太田雄貴さんもいたクラブチームに入り、高校も太田さんと同じ龍谷大平安高校へ進んだ。太田選手が北京オリンピックの個人フルーレで銀メダルを獲得したのは、西村さんが中学3年の時だ。

憧れの先輩の後を追うように同志社大学に入り、フエンス部へ。主将になった今年は、「どんな大会でも一番上に立つことを目標に置いています。どくに関西学生リーグ戦の男子フルーレでは、これまで2位など悔しい結果が多いので、ぜひとも優勝したい」。

その一方、アジア選手権でも涙をのんだ個人戦で頂点に立つことも大きな目標。「高校時代、京都では優勝しましたが、近畿ではあと二歩のところで敗退していました。もちろん全国優勝を経験したこともないので、今年は個人としても結果にこだわりたいと思っています」。

そして、その先に見据えるのはオリンピックの表彰台。来年のリオデジヤネイロ大会はすでに代表メンバーが決定しているのだから、狙うのは2020年、28歳で迎える東京大会だ。



西村 拓也さん
【商学部 3年次生】



第3回U-23アジア選手権の様子
(西村さん：左から2番目)

